

# 名古屋芸術大学・大学院 後援会報

第60号 2016年3月31日発行

## CONTENTS

1	目次 後援会へのお誘い(委員募集)	23	親の想い・子の想い
2	卒業生に贈る言葉	25	音楽学部 第43回卒業演奏会報告 大学院音楽研究科 第18回修了演奏会報告 美術学部 第43回卒業制作展報告
3	名古屋芸術大学近況報告 音楽学部・美術学部・デザイン学部	26	大学院美術研究科 第20回修了制作展報告 大学院デザイン研究科 修了制作展報告
12	2015年度デザイン「Review」展のご案内	27	私が就職内定をもらうまで
13	人間発達学部近況報告	29	第26回生涯学習大学公開講座報告
15	学生部報告 大学へのお問合せ先一覧	30	後援会研修旅行報告
16	芸大祭報告	31	大学運営組織図
17	在学生及び卒業生の 展覧会・各種コンクール等受賞結果	32	名古屋芸術大学・大学院後援会会則
19	国際交流レポート	33	同窓会総会・卒業生懇親会報告
20	2015年度ブライトン大学賞	34	せせらぎ合唱団・壁の華 会員募集 編集後記
21	後援会補助公開講座実施報告		

### 後援会委員募集

皆様には益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

日頃は後援会活動にご理解とご協力をいただき心から感謝申し上げます。

後援会では後援会報にて後援会事業報告、大学の様子、活動等での学生の活躍を数々紹介しています。

お子様は学生生活を一生懸命に。保護者の皆様は後援会に参加して私たちと一緒に活動しませんか。

あなたの力を貸してほしいです。

この場が皆様とのご縁のきっかけになれば嬉しく思います。

募集期間は定期総会のときはもちろん、随時募集をしています。

是非ご連絡を心待ちにいたしております。

#### 【お問い合わせ】

電話：0568-24-0315（内線385番）

メールアドレス：kouenkai@nua.ac.jp

副会長 真野久美子



## 卒業生に贈る言葉



後援会長  
飯田 康子

卒業生の皆様、ご父兄の皆様ご卒業おめでとうございます。

卒業演奏、卒展などを拝見して自分のすべての時間を捧げ、使い注いできた過程を垣間見ると、その背景にある、葛藤、迷い、そして情熱を感じることができます。

その大切な学生生活が今後の社会生活での光輝く支えとなることと信じています。

人生の先輩であるお父さん、お母さん、他の大人の方も多分そうであるように順調でないときもあり、理不尽、挫折、心折れることは多々あります。社会に出れば自分がコントロールできる自分だけの時間は少なくなり、どれだけ学生生活が充実し、光輝く時間であったかを認識されると思います。

卒業され、社会人として母校を見ていただき学生の情熱や力、また社会人としての頑張りを見互いに見ていける関係性になっていただければ幸いです。

本学は芸術系の大学です。

芸術の脳は右脳を使っているといわれています。作品作りや曲作りの場面で、意識していなくても五感などの感覚を駆使していると思われます。自然に身についた感覚は社会に出ても必ず役立つものと思います。

感動という形のないものを与えられる力を持つ芸術、それを作り上げる過程での努力と感性、作品に対応する真摯な姿勢これらを持つ皆さんは必ず社会で必要とされる人材になると確信しています。

また、人の教育に携わるといふ素晴らしい職業を目指された皆さんも芸大という学校を卒業され同じキャンパスで直接はかかわりがなくとも広い視野で五感を使い素晴らしい感覚を持ち勉強されたと思います。

これからは社会がもっと皆さんの力を必要とする時が来ると信じています。

皆さんの活躍を楽しみにしております。

また、本学の教職員の皆様にはご指導とご鞭撻を賜り、深く感謝いたします。



学長  
竹本 義明

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

あらためて4年間の大学生活を終え、社会に飛び立とうとする皆さんが、本学にどのような印象を持たれたか気になります。

大学の人材養成目的をしっかり受け止め、晴れて卒業を迎え入学前と卒業時における意識のギャップが大きくならないことを願っています。

さて、昨年9月1日にリクルート発刊のカレッジマネジメント特集「進学ブランド力調査2015イメージランキング(東海)」で、名古屋芸術大学がいくつかの項目でランクインしました。そのことが学内での学修の成果に結びつくと考えられます。

これはあくまでもイメージですが、「感性と創造力に

富んだ人材の育成を目標とする」本学にあっては、とても大切な指標となります。ランキングは、東海エリア(静岡、愛知、岐阜、三重)の2016年3月卒業予定の高校3年生を対象にリクルートが調査したのですが、全体、男子、女子で順位付けがされています。

全体順位には「専門分野を深く学べる」「自分の興味や可能性が上げられる」「個性的な」が上位にランクインされています。男女ごとの順位では「教育方針・カリキュラムが魅力的である」「親しみやすい」「おしゃれな」などの項目がランクインされています。このランキングは一般大学を含め全ての大学を対象としたものであり、その中でこのような評価を持たれていることに対し、本学に学びを求めた学生に裏切らない大学教育を提供することが重要と考えています。

本学は2017年から学部・学科の新しい枠組みで大学教育を展開する取り組みを準備しています。受験生や入学生の多様化する意識に対応し、芸術及び教育の現場が大きく変貌する中で、グローバル化にふさわしい教育を考えています。

政治、経済、社会そして芸術が境目のないボーダレス化する中で、発想力や表現力の転換を図り「融合と再編」に取り組み、「ONE名芸」を目指します。

# 名古屋芸術大学近況報告

## 音楽学部

### 《演奏学科》

#### 声楽コース

声楽コースでは、卒業生の本学での活躍をご紹介しますと思います。

先ず、今年も新たに優秀な卒業生を講師として迎え入れることが出来ました。平成11年度に音楽教育学科を卒業した大須賀園枝先生です。本学卒業後は東京二期会を中心に活躍をし、高い評価を受けています。現在は活動の場を名古屋に移し、今後は本学での後進の指導で貢献をしてくれるものと期待しています。

また今年も、イタリアで更に研鑽を積んだ卒業生が帰国し歌声を披露してくれました。平成20年度声楽を卒業した、つじ村ふみ恵さんです。5年間の留学でブレッシャ音楽院修了試験ではイタリア語論文により首席という輝かしい成績を残しています。昨年11月に本学のホールで行われた韓国慶南大学との教員交流コンサートに特別出演し、学生たちに本場のベルカント唱法を身に付けた歌を聞かせてくれました。

その他、今年もマルチェッラ レアーレ教授の公開レッスンを春と秋の2回行いましたが、そこでは平成13年度卒業の寺元知恵さんが通訳とピアノ伴奏で教授の補佐を努めました。この授業は、外人教師による国際的な声楽表現法についての授業ですが、寺元さんの流暢なイタリア語的確な通訳とオペラに精通したピアノ伴奏で、学生たちはレアーレ教授のレッスン法に改めて感動をした様子でした。

その他恒例と成っています声楽のメイン公演では、2月8日の歌曲コンサートと2月26・27日のオペラ公演も学生たちは一生懸命に取り組んでくれました。歌曲コンサートは名古屋市熱田文化小劇場で行いましたが、音響効果が良いホールでの演奏に学生たちは学内よりも緊張感に満ちたいい歌を披露してくれました。最後にオペラ公演ですが、今年も子供を主題にした作品を取り上げました。林光作曲の「あまんじゃくとうりこ姫」とラヴェル作曲の「子供と魔法」という子供の純真な心を表現した素晴らしいユニークな作品に取り組みました。子ども向けと言いつてもその音楽は大変難しく、変拍子も多く、困難な勉強をしなければなりません。しかしその難しさを克服し、学生たちは真剣な取り組みで見事に素晴らしいオペラとなり、多くの観客を魅了しました。すべての学生がそれぞれの目標に向けて真摯に取り組む向上をしています。来年度は、西文化小劇場との共催企画として新しい大学オペラをお目にかけることとなりますのでどうぞご期待下さい。

声楽コース オペラ研究担当 教授 澤脇達晴

#### ピアノコース

後期には、数多くの演奏会が開催されました。先のオーディションで選ばれた学生たちによる室内楽のタベが、11月に満員の聴衆を集め、電気文化会館ザ・コンサートホールで開かれました。今回は弦管打コースとの合同演奏会だったので、例年以上に多彩なプログラムが披露され、私達を楽しませてくれました。

新年になってから2月19日には、4年生による恒例の春のコンサートが行われました。(熱田文化小劇場)この春卒業する学生たちのピアノには音楽を愛する気持ちが溢れ、客席に深い感動が伝わりました。

続いて2月23日、カワイコンサートサロンブルーで選ばれた19人の学生による演奏会が開かれました。このコンサートは、学年後期の成績が優秀な学生によるもので、在学生たちは同級生や先輩、後輩の演奏に感心、感嘆していました。そして3月10日には、4年生最後を飾る卒業演奏会がしらかわホールで開催されました。数々のプログラムの中で、やはりピアノ一台で勝負するピアノコースの学生の演奏は素晴らしくまた荘厳で、心を深く打つものがありました。今年度は5人が出演しました。

レッスンにおいては、本学客員教授でピアニストの近藤嘉宏先生の今年度3回目のレッスンが、1月13日と14日に行われました。また同じく音楽客員教授でウィーン国立音楽大学教授マインハルト・プリンツ先生のレッスンも2月8日と9日に行われました。

8日には3号館ホールステージに学生、聴衆を集めてプリンツ先生のモーツァルトソナタのレクチャーがありました。“ソナタK.333とK.576を中心に”というタイトルでしたが、先生の素晴らしい演奏を聴きながら、その確かな音楽と理論に裏付けされた講義に私たちは納得・感嘆しました。

ピアノコース 教授 菅原美枝子

#### 電子オルガンコース

2015年度の電子オルガンコースは、対外的には各種演奏機会にも恵まれて、大いに活気があった1年であったと申せます。尾張一宮の七夕祭りでのステージも恒例化してきた観があります。また、ヤマハ伏見店でのフロアコンサートの機会も頂きました。大学が提携した豊橋のんほいパークの豊橋市自然史博物館の恐竜展示ブースに於いては、学生と教員によるカジュアルなコンサートをさせていただいたのみならず、学生が演奏した本人自作の「恐竜」をテーマにした曲が博物館関係者の耳にとまり、同博物館の恐竜展示のテーマ音楽として使ってもらったことになりました。そこで後日、学生が自分の

演奏を録音して博物館に提供いたしました。学内におきましても秋のコース定演『アースエコー』、夏のワークショップ、オープンキャンパスでのステージなどなど、どれも盛況にて「活きた音楽を名芸から発信」してる自負を深めております。

今年度より講師陣に加わった現役演奏者としても大活躍中の亀谷真児、太田美香の両先生も、学生に大変良い刺激を与えてくれて喜んでおります。総じて電子オルガンコースも教員と学生の距離が良い意味で近く、活気を保ちながら日々学んでおります。

2015年度の卒業生は愛知県の教員採用合格者1名、ヤマハのシステム講師採用5名を含み、半数以上が各種指導者、3分の1が一般企業、1名は大学院へ…などと立派に巣立ってくれそうです。

今後とも皆様のご理解と応援を賜りたく存じます。

電子オルガンコース 准教授 鷹野雅史

### 弦管打コース

弦管打コースは、今年度も2つの定期演奏会が行われました。まずは第34回名古屋芸術大学ウィンドオーケストラ定期演奏会が愛知県芸術劇場コンサートホールにて9月21日に行われました。竹内雅一、ヤン・ヴァンデルロースト両教授の指揮により7曲が披露されましたが、この中には日本初演の作品や毎年恒例行事となっているデ・ハスケ社の録音のものも含まれていました。この日は祝日という事もあり、昨年より多くの観客の方に入場して頂きました。

次に第33回名古屋芸術大学オーケストラ定期演奏会が同会場にて10月31日に行われました。今回はオールチャイコフスキーというプログラムで、演奏する側にとっても非常に難易度の高い演奏会になりましたが、駆け付けた観客の皆様の温かい拍手に支えられ、本番はクオリティの高いものとなりました。

11月12日に電気文化会館にて、室内楽のタベが行われました。今年度から、ピアノコースと共同開催という形になり、それぞれのコースで行われたオーディションで選ばれた学生が演奏を披露しましたが、とてもバラエティにとんだプログラムになり、聴く方としては非常に楽しめた演奏会となりました。

室内楽大編成の部は昨年同様、大学の3号館ホールにて、11月28日に行われました。年が変わり2016年2月20日アンサンブル・フィラルモニク・ア・ヴァン第17回定期演奏会が大学3号館ホールにて行われました。今回は北名古屋市とのコラボレーション企画のため、クラシックやポップスなど幅広い作品が演奏され、訪れた観客を楽しませていました。

弦管打コース 准教授 依田嘉明

## 《音楽文化創造学科》

### 音楽教育コース

本コースの学生たちは皆、将来、音楽教員・音楽指導

者など、音楽教育の場で活躍したいという夢を持って日々努力を重ねています。すぐれた指導者になるために必要なことは、まずは知識や技能を身につけることです。大学の講義においては音楽教育学や音楽学、教育学を学び、レッスンでは、ピアノや声楽などの技能を身につける勉強を行っていますが、一方、さまざまな音楽・音楽文化に直接触れることも大切だと考えています。

8月初めには、1年生とともに静岡県磐田市の旧見付学校に行きました。ここは、今から140年前の明治8年(1875)に建てられた、現存する日本最古の小学校で、木造擬洋風の建物です。明治時代初期の教育の場を知ることにより、日本における教育史の一端に触れました。

今年2月には、授業(ゼミ)の一環として、2・3年生とともに和歌山県を訪れました。熊野那智大社では、「重要無形民俗文化材」・「ユネスコ無形文化遺産」に指定されている「那智の田楽」が上演される場を見学し、日本の音楽文化に触れました。さらに、串本町の「トルコ記念館」に足を延ばしました。トルコと日本の音楽的な関係というと、軍楽隊や吹奏楽が思い起こされます。それらの起源とされる音楽はトルコの軍楽隊と言われていますが、記念館を訪れ、トルコの文化について学びました。トルコは東西文化の融合する国ですが、地理上は西アジアの一国です。学生たちは、「アジアと言っても、さまざまな国がある」ことを認識した様子でした。

同じく2月に、1～3年生の学生たちと滋賀県長浜の「能舞館」を訪れ、日本伝統芸能のひとつである能について学びました。能の装束、能面、楽器などが数多く展示されていて、それらを見るのみならず、実際に能面をつけ、老松が描かれた能舞台上がり、能役者の気分を味わいました。数多くの展示資料から、能の世界を身近に感じる事ができました。

大学の講義等で、また各自が文献で勉強すること、これらはいずれも重要なことですが、それに加えて、実際に自身の目で見て実際にさまざまなものに触れるという体験を多く積み、人間性豊かな教育者になってほしいと思います。

音楽教育コース 教授 金子敦子

### 作曲コース

作曲コースでは、作品を創作する上で必要な様々な知識を多角的に学びます。特に作品を作る上で最も重要なポイントは構成力です。このことをしっかり身に付けるためには、理論的なトレーニングをかなりの時間をかけて勉強することが必要になります。その結果、土台のしっかりとした自分の表現したい音楽作りが可能になるといえます。

作曲コースの学生はマンツーマンのレッスンを通じて、理論と共に、実際の作品創作を学び、例年3月に行なわれる試演会で、プロの演奏家をお願いして、学生各々の作品を実際に演奏していただきます。本年は、本

学のミニオープンキャンパスの3月5日に試演会を行ないましたが、譜面上で構築した音楽を実際に聴くことで、思い通りになっているのか、あるいは思っていたイメージがうまく表現出来ていなかった場合も含め、自分の音楽を客観的にみつめることができるいい経験になります。

また試演会の他、学内で行なわれる演奏会や、コンクールで自作品を発表する学生も多く、その経験が個々の音楽性をのばす結果につながっているともいえます。

作曲コース 教授 田中範康

## サウンドメディアコース

サウンドメディアコースでは、9月7日より1泊2日で1年生のフレッシュマンキャンプを山梨県清里清泉寮で行いました。ここでは4年間の具体的な学習内容の確認をはじめ、音楽創作・録音・音響の各分野に別れ、事前に課していた課題を中心に担当教員と密接なディスカッションを行い、個々の能力に応じた教育プログラムを確認することができました。

コース主催の特別講義・公開講座としては、10月29日、日本を代表するギター奏者である佐藤紀雄氏、箏・木村麻耶氏、また南米コロンビアよりギター・ギジェルモ・ボッカネグラ氏を招き、公開講座「西洋と東洋の弦楽器 ギター・箏 演奏会」を行いました。

また、1月12日には、アコーディオン、大田智美氏を招き、公開講座「アコーディオンの可能性を探る～風で響きを操る不思議な楽器～」を行いました。1月14



日には、サウンドデザイナー・ミキシングエンジニアとして活躍されている染谷和孝氏を招き、特別講義「映画・ゲームのサウンドデザインとミキシングについて」を行い、いずれも本コースで音楽制作・録音・音響について学んでいる学生にとって、大変貴重な機会となりました。

また、本コースでの1年の勉強の集大成の場として取り組んでいる作品発表イベント「カレイドスコープ」を2月21日(日)2号館大アンサンブル室で行いました。

このイベントは、サウンドメディアコースと総合コースでサウンドメディア科目を履修する学生が、自身が創作した音楽を中心としながら、デザイン学部学生による映像表現、エンタテインメントディレクションコース学生による照明表現とのコラボレーションを行い、最先端のテクノロジーを駆使した実験的な音楽・音響空間作りを目指したコンサートですが、今年度は小編成の弦楽アンサンブルと様々なアコースティック楽器とエレクトリック楽器を表現の媒体とし、個性豊かな12曲を発表しました。

これからも本コースは、音楽制作・録音・音響を通じて音楽とテクノロジーと芸術の関わりについて学生とともに考えていくことができたらと考えています。ご支援のほどよろしくお願いいたします。

サウンド・メディアコース 准教授 長江和哉

## 音楽療法コース

11月22日は、教員、卒業生、4年生で、北名古屋市の旧加藤邸で美術学部主催のイベント“記憶の庭で遊ぶ”の音楽イベントを担当しました。地域の方々との年齢層に合わせた曲目、音楽療法独特の楽器を使った参加型プログラムなどを民家の一室で行い、多くの方と一緒に音楽をする場を持つことができました。

11月29日には、東キャンパス11号館にて第3回音楽療法研究会を開催し、多くの卒業生が参



加してくれました。担当の卒業生が企画した実践的な講座は非常に好評で、音楽療法の仕事や学習に役立つものでしたし、立食交流会では卒業生、在校生の交流も進み、非常に充実した会となりました。

今後も音楽療法コースは、卒業生との共同研究活動を続けていくことで、東海地方での音楽療法の発展に寄与していきたいと考えています。

また12月13日には、学内(大アンサンブル室)で音楽療法クリスマスコンサートを開催しました。来場した子供たちだけでなくその保護者の方々にも馴染みのある曲目も織り交ぜて構成し、参加型プログラムでは、ステージと客席が一体となって、音楽療法コースらしいコンサートとなりました。

年末から年始にかけては、日本音楽療法学会認定音楽療法士(補)の試験対策を行い、4年生は根を詰めて勉強しました。その結果全員合格という快挙を成し遂げました。

来年度からは、音楽ケアデザインコースとして新生しますが、これまで培ってきたことを大切にしながら、新しい分野にも挑戦していこうと志を新たにしているところです。



音楽療法コース 准教授 伊藤孝子

#### ミュージカルコース

3月のミュージカル公演では、あの奇跡の少女ジャンヌ・ダルクが現代に現れたとしたら、この世の中で何が

起こり、何が変わるのかをスウィングジャズに乗せて描いたオリジナル作品『Swing! Jeanne, Swing!』を上演致しました。

ミュージカルコースではロックミュージカル、ポップミュージカルなどを学びますが、ミュージカルの基本であるジャズミュージカルは必ず学ばなければならないジャンルであり、年に一度はジャズミュージカルの試演を行っています。

毎年、高山市で開催されている「飛騨・童話会議」では7回目の公演として『星の王子様によろしく!』を上演致しました。第1回から数えますと500名を超す飛騨地方の方々に参加して頂いているこの企画は、冬の高山市のイベントとしてしっかりと定着したものとなっています。また、高山文化芸術祭のイベントとして、国府、荘川、羽島でミュージカルコンサートもやらせて頂きました。

新年の北名古屋市では恒例の「ベストテンコンサート」を開催させて頂きました。名古屋芸術大学と北名古屋市が主催し、ポッカサッポロフードアンドビバレッジの協賛を頂いたこのコンサートは、70年代～90年代の日本の名曲を歌い継ごうという趣旨から始まったものですが、これも新春の北名古屋市のイベントとして多くの皆様に愛されるコンサートとなっております。

今年は「あいちトリエンナーレ」の年です。「県立芸術劇場をブロードウェイにする」という名古屋芸術大学の企画が採用されました。ショービジネスの魅力溢れるステージを創り上げるべく、ミュージカルスタジオではレッスンとリハーサルが繰り返されることとなります。

ミュージカルコース 教授 森泉博行

#### アートマネジメントコース

2012年4月、旧ビジネスコースは「アートマネジメントコース」へと名称を変更し、同時にカリキュラムも一新しました。

新しく加わったスタッフたちとともに、魅力的な授業を展開してきましたが、発足から4年が経った2015年度をもって、カリキュラムは無事完成し、旧カリキュラムとの同居という不自然なコース運営から解放されることになりました。またそれはアートマネジメントコースとして初めての卒業生を送り出すことをも意味しています。その卒業生たちが、最終学年で取り組んだ最大の行事が、昨年11月28日に名古屋音楽学校で行われた「親子でたのしむ! おとのひみつきち」公演でした。アートマネジメント実習と舞台監督研究という2つの授業を基礎として、卒業制作を目指した卒業研究の授業成果発表の機会でした。

4月初期の授業から、どのような公演を行うかを検討し始め、それが決まると今度はテーマを設定します。スケジュールを決めることもとても大事なことです。10人以上の人間が同じ歩調で進むためには欠かせません。リーダーの指導力も必要なことです。学生たちはそれぞれが意見を言い合いつつも、最終的にはそのリーダーの

決定に従います。

ある程度机上の計画が出来上がると、今度は仕事の分担を決め、個人の発想の赴くままに坦々と作業はすすめていきました。今回の公演は、子どもたちを対象としていましたので、手作り楽器を用意したり、子供たちが喜ぶような出し物を考案したりと、色々なアイデアが試されました。

また、手作り楽器の発想から、すでに様々な場で活躍している2人組の「K a j i i」さんに出演をお願いすることにしました。主として台所まわりにある様々な品物を用いて音楽を作り出していくグループです。

この「K a j i i」さんと連絡を取り合い、出演料の交渉や、日程の作成と打合せ等々の運営作業を行うなかで、学生たちは日を追うごとに成長していきました。

さて、公演が終わっても授業は終わりではありません。卒業研究として行った卒業制作には、それを文章としてまとめるレポート作成(卒論)の作業があります。最終提出日は2016年1月5日に設定されていましたが、誰一人として遅れることなく提出を終え、全員が晴れて卒業単位を取得することができました。頑張り！卒業生たち。

アートマネジメントコース 教授 山田 純

### ジャズ&ポップスコース

設立15年となるジャズ&ポップスコースでは、恒例となった2号館ロビーで開催される「ロビーコンサート」が今年度も6回開催されました。学内だけでなく地域住民の方も楽しみに鑑賞に来られる方が増加しています。

9月7・8日は山梨県清里にある清泉寮でフレッシュマンキャンプを行い、今後の授業及び大学生活に対する取り組みについて、担当教員や上級生のアドバイスを受けながら充実したセミナーを行いました。

そして、4年生にとって学習の集大成である卒業演奏会が東キャンパス3号館ホールで行なわれました。今回で第8回目となりますが、セッションが中心となるため、ジャズ&ポップスコースの在学生在が演奏に参加し、卒業生の技術、表現力を学ぶ良い機会にもなっています。

ジャズ&ポップスコース 教授 竹本義明

### エンターテインメントディレクションコース

今年、「音楽のあるステージ」を創るスタッフの養成を目的としたエンターテインメントディレクションコースが新設されました。25名の1期生は、将来、演出・照明・音響・ステージ美術、衣装デザインなどのプロとなることを目指して、教室での勉強と実際の制作現場での研修にとっても熱心に取り組んでいます。

学生たちは既に2本の作品を創り上げました。両作品とも企画から構成・演出・照明・音響の全てを学生たちが担当し、3号館ホールにて200名を越す観客の皆様の前で上演されました。更に、大学や高山市でのミュージ

カル公演、北名古屋市のコンサートなどの制作現場にはスタッフとして参加し、教室では学ぶことの出来ない生きた体験の中で、将来を見据えた知識と技術の獲得に励んでいます。

コースの特徴からして、教員はミュージカル界、テレビ局、コンサート業界などで現役として作品創作に携わっている方々が中心のシフトとなっており、エンターテインメント業界の最新の情報を学生たちに伝えることを第一の目的としています。

また、スーパー歌舞伎、東宝ミュージカル、海外のオペラ、バレエ公演などに参加している様々なスタッフがゲスト講師として来校し、実際に公演やコンサートで使用された衣装、特殊道具などを手に取りながら極めて実践的な講義が繰り返されています。

このコースの特徴として、卒業年次までに「ステージ関係の3つの資格」を取得出来るということとしていますが、今年、既に16名の学生が2つの資格を取得致しました。

この4月には学生たちの1stパフォーマンスが予定されています。企画は完成しています。新しい感覚に溢れた作品が誕生するはずですよ。

エンターテインメントディレクションコース  
教授 森泉博行

## 《演奏学科・音楽文化創造学科》

### 音楽総合コース

他コースと違って確たるカリキュラムのない音楽総合コースは、運営面における宿命的な「危うさ」を持っているのにも関わらず、教員・事務方・助手の皆さんの絶大なサポートにより、マメな面談を通して学生の声を聞き対応すべきところは動くなど、今年度も大方無事に回りましたことは、内輪ながら関係者各位におおいに感謝を致したく存じます。

今年度の音楽総合コースの近況を大雑把にではありますが(何しろ多岐に渡る学生がおり、詳細は、ご報告としては、いささか、まとまりに欠けてくるとも存じますので…)ご報告いたします。

入学時の総合コース希望学生数が残念ながら減少傾向にあるのに対して、一方では、総合コースへの転科希望が増加傾向にあるという事実を興味深く見守っております。面談から得られた感触は、学生らの「学びたい気持ち」でした。コースを特定すると「この授業がとれない」「レッスンが出来なくなる」などの理由ばかりと申し上げて良いと思います。このことを考えますと、端的に申せば本学の音楽総合コースは最善の形で学生らのニーズに応えているとも感じるのです。

お叱りを覚悟で更なる私見を申せば、この『音楽総合コース』こそ、名芸の最も名芸らしい、名芸たらしめるコースであろうと思うのです。

音楽総合コース運営委員会委員長 准教授 鷹野雅史

# 美術学部

2015年度下半期の美術学部の最大のトピックスは、アート&デザインセンター企画「佐喜眞美術館のスタンス～丸木位里・俊、ケーテ・コルヴィッツを中心に」展を開催できたことです。

佐喜眞美術館は、目の前に広がる普天間基地から戦地・紛争地に向かう軍用機が発着する基地の一面を返還させて立てられた美術館で、丸木夫妻の「沖縄戦の図」をはじめ、ガマでの集団自死を取材し描いた「チビチリガマ」を含む『読谷三部作』、また息子を第一次大戦で、孫を第二次大戦で亡くしたケーテ・コルヴィッツの版画を多数展示する美術館です。

館長の佐喜眞道夫氏は、アートで平和を生み出すことを信じ、この美術館を運営して来られました。

**展覧会期：10月16日（金）～28日（水）**

**主催：アート&デザインセンター**

**企画：美術学部アートクリエイターコース**

**協力：佐喜眞美術館**

関連イベント：

- ① 絵画ワークショップ：「平和についての絵画を描く」  
8月4日（火）～7日（金） 西キャンパスG 201 共通デッサン室  
高・大生による絵画ワークショップ  
講師：中田由絵（アートクリエイターコース非常勤講師）  
担当：西村正幸、松岡徹
- ② 特別講演会1：「『劫火』から『沖縄 うりずんの雨』までを語る」  
9月24日（木） 西キャンパスB大講義室  
講師：ジャン・ユンカーマン（ドキュメンタリー映画監督）
- ③ 特別講演会2：「原爆から沖縄戦～丸木位里・俊の絵画表現と戦争認識の変容」  
10月17日（土） 西キャンパスB大講義室  
講師：小沢節子（近現代史研究者）
- ④ 公開ゼミ1：「『平和』の絵画を巡って～佐喜眞道夫と高・大生との対話」  
10月18日（日） アート&デザインセンター  
8月に高・大生が制作した「平和」についての絵画展示を前に。  
講師：佐喜眞道夫、進行：西村正幸
- ⑤ 特別講演会3：「沖縄に戦後は訪れたのか～佐喜眞美術館のスタンス～」  
10月18日（日） 西キャンパスB大講義室  
講師：佐喜眞道夫
- ⑥ 公開ゼミ2：「版画に刻まれた祈り；ケーテ・コルヴィッツを語ろう」  
10月27日（火） 西キャンパスB視聴覚教室  
講師：長田謙一（美術学部教授）、西村正幸  
進行：木村遊、森下未由記（美術学部美術文化コース4年）、  
村松さつき（美術学部アートクリエイターコース美術文化クラス3年）

戦後70年を迎えた年に、ぜひ「アートで平和をつくる」スタンスを貫く佐喜眞美術館を紹介する展覧会をぜひ開催したいと館長に打診し、快諾を得て開催に至りました。

当初はケーテ・コルヴィッツの版画だけでもお借りできればと企画を進める中、国内では沖縄から出したことのない「読谷三部作」を貸し出してもよいと言ってくださり、展示空間の都合で2点だけお借りすることになりました。

展覧会は、アート&デザインセンター開設以来最も大ぜいの来場者（2,000人弱）が訪れてくださり、会期中の特別講演等もあり、何度も足を運んでくださる方もおられました。



佐喜眞：丸木作品



佐喜眞：高校生鑑賞



佐喜眞：搬入風景



佐喜眞館長：西村教授



# デザイン学部

## 2015年度後期デザイン学部の活動報告

デザイン学部では年間を通して特別講義、産学官学連携プロジェクト等が通常の授業に加え実施されており学生、教員共に過密スケジュールのなか教育活動を進めております。北名古屋市を始め愛知県内、岐阜県、東京と学生の活動の場も広がっています。



### 9月18日より後期授業がスタートしました。

1年生は基礎実技教育であるファンデーション後期共通課題である、私の店、明かりのデザイン、モーフィング、廃品による素材体験、ピクトグラムなどの制作を体験し、1月にはレビュー展に参加しました。このレビュー展示で2年生以降の選択コースが決定するため、真冬の寒さとは反比例して熱気は高まります。2年生以降の専門コースへの進級に期待し、準備をはじめます。



- テキスタイルデザインコースは、学生のアイデアと伝統産業の技術力を結びつけ、地場産業の発展に貢献することを目的とする、産学連携プロジェクトを2005年から行っています。今年も、名古屋市中区栄の「オアシス21 銀河の広場」で、第32回尾張名古屋の職人展（9月25日から27日まで3日間）で本学と名古屋帽子協同組合・中部日本ネーム刺繍業組合の協同企画で、テーマは『祭り春・夏・秋・冬』で、四季の祭りをイメージした帽子13点がファッションショーで披露され、ブースに展示されました。



ファッションショーの様子



名古屋帽子協同組合のブースに展示された学生がデザインした帽子

- 今年もTOKYO ART BOOK FAIR 2015（9月19日から21日、京都造形芸術大学・東北芸術工科大学 外苑キャンパスで開催）にメディコミュニケーションデザインコースが参加しました。アートブックをつくる出版社やギャラリー、アーティストら約300組が一堂に集結し、3日間で1万人以上の来場者がある人気のイベントです。MCDコースからは50冊以上の本が出品され、多くの人々に手に取ってもらい、購入してもらおう事は学生の励みとなっています。



TOKYO ART BOOK

- デザイン学部デザイン学科インダストリアルデザインコース研究生の澤邊美駒さんが、日本タイポグラフィ年鑑2016学生部門グランプリを受賞、ライフスタイルデザインコース4年生の北村友美さんが入選に選ばれました。グランプリ受賞作品は、澤邊さんが卒業制作で作成した「きらきら りんりん ころころ」というタイトルの作品です。擬音語・擬態語を用いて、音・動き・触り心地など、それぞれ異なった仕掛けがされており、親子のコミュニケーションを目的とした木製の知育玩具です。2016年4月22日（金）東京六本木にて開催予定の授賞式において、賞状・副賞・『日本タイポグラフィ年鑑2016』を授与される予定です。

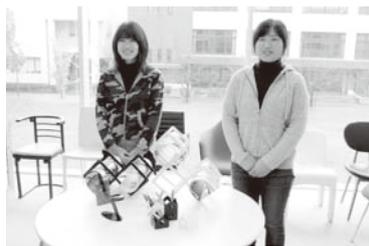


インダストリアルデザインコース研究生の澤邊美駒さん



グランプリ受賞作品「きらきら りんりん ころころ」

●インダストリアルコースの学生とナガサキ工業株式会社が、本年4月より取り組んできた産学連携事業の新製品開発プロジェクトで、学生がデザインした作品が製品化され発売されました。12月1日より家庭用品としてネット販売されている商品は、ペンスタンド、キースタンド、マガジンラックの3点です。なお、今後も第2弾、3弾と学生がデザインした製品が発売される予定です。



●IDコースは「マルマン」製のB6判スケッチブックのご当地版シリーズの開発に協力し名古屋版「楽しいヒントがいっぱい親子であそぶスケッチブック oneday 名古屋」が発売されました。

●ヴィジュアルデザインコースが前期授業で実施していた「ふれあいバスの車窓から」の市長報告後に、「津島市と名古屋芸術大学との連携・協力に関する協定」を締結、調印式が10月15日（水）、津島市役所で行われました。本学と津島市との連携の始まりは2011年に遡ります。今後も様々な形で関わっていく事となります。



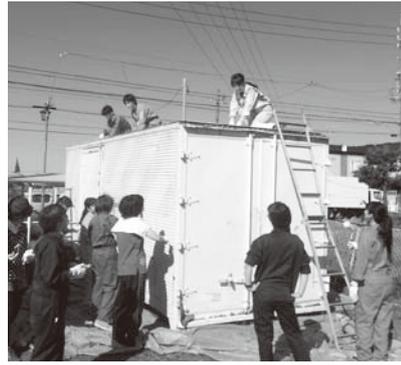
●本学の所在する北名古屋市は、平成28年3月20日、市制施行10周年を迎えます。本学と北名古屋市は、10周年記念事業の推進にあたり、「市制施行10周年記念事業連携プロジェクト」を発足させ、本学は、10周年の基本理念や推進テーマが伝わるロゴマーク及びキャッチフレーズの制作、記念映像の制作、記念式典における演奏・演出、記念焼酎のラベルデザインを手掛けました。



北名古屋市市制10周年映像



●SDコース、DMコース有志 北名古屋市との「土と人のプロジェクト」2015年度テーマ 無人販売所を学内にオープンしました。このプロジェクトは2012からスタートし今年で4年目です。今後も継続していきます。  
3月22日には北名古屋市市役所職員の方への報告会とワークショップ「土と人のプロジェクト」を開催しました。



参加型コミュニケーション啓発ゲーム  
3種類の制作



●メディアコミュニケーションデザインコースと、特定非営利活動法人 高齢者住まいの研究会による受託研究「防災体験会用ゲームのデザインと制作」が完了し、2月29日に最終プレゼン&引き渡し会(本学)、3月17日には名大減災館でプレゼンを実施しました。参加型コミュニケーション啓発ゲームの3種類「防災ビンゴ」、「防災すころく」、「防災ビジュアル絵本」4冊を制作しました。

名芸でのデザイン教育を37年余ご指導くださり、本学の発展に多大なご功績のあった落合紀文学部長が闘病の後、8月にご逝去されましたことは、デザイン学部にとって大きな悲しみでございました。デザイン学部教員一同、先生の後を引き継ぎ名芸のデザイン教育・研究を進めていく所存です。

なお「落合先生の引出し?ービジュアルデザインからおもちゃまで」展<2016年6月10日から(11日パーティ)>をA&Dセンターで予定しております。ご案内申し上げます。

デザイン学部 教授 櫃田珠実

## 2015年度 デザイン学部 「Review」展

デザイン学部では、1~3年生を対象として全課題作品を学内で展示し、教育の一貫として1年間の学業を客観的に見つめ直すことを目的とするレビュー展を開催しています。各学生は個人ブース内に展示し、それぞれが創意をこらして自分の世界を表現していました。

今年度は1月9日(土)、10日(日)、16日(土)、17日(日)に西キャンパス体育館とX棟1階でレビュー展の一般公開を行いました。

学生の父兄や友人、企業の方、他学部の学生など、1758名の方々に見ていただき、最終日は沢山の家族連れでにぎわいました。



## 人間発達学部

人間発達学部は発足以来9年目を迎え、芸術総合大学の中の保育・教育系学部の特徴作りの努力が開花し始め、ようやく芸大の一学部として落ち着いてきました。卒業論文制作を終え就職先も内定した4年次学生たち、『春を呼ぶ芸術フェスティバル』をやり終え2週間の保育所実習Ⅱを終えた3年次学生たち、初めての学外実習としての2週間の保育所実習Ⅰを終えた2年次学生たち、基礎演習を通してこれからの大学生活を見すえたであろう1年次学生たち、皆それぞれ一生懸命自分のやるべきことに取り組み、充実した今年度を過ごし、次年度の準備を迎えるばかりになってきました。

### 学部行事

#### (1)特別公開講座

人間発達学部が主催する特別公開講座【発達障がいなど困難をかかえた子どもの保育】が、浜谷直人氏(東京都立大学・教授)を講師に、9月19日(土)ウィルあいち(名古屋市東区)で開催されました。会場には、人間発達学部の学生をはじめ、卒業生や幼稚園・保育所・こども園の先生など、大勢の教育現場に携わる皆さんが来場されました。講座では、浜谷氏の著書『仲間とともに自己肯定感が育つ保育-安心のなかで挑戦する子どもたち』や『場面の切り替えから保育を見直す一遊びこむ実践で仲間意識が育つ』などの内容に加え、巡回相談員として実際の保育で見聞きした事例を交え、主に発達障がいを持つ子どもたちの支援について説明されました。最後に「これからも、皆さんとご一緒に考えていきたいですね。」と講座を結び、会場からは大きな拍手が送られました。

#### (2)文化創造セミナー

人間発達学部が主催する文化創造セミナー『保育者・教育者になるための芸術ワークショップ』が、アニエス・デフェス氏(俳優・演出家・写真家)とローラン・デュボン氏(俳優・音楽家・演出家)のお二人を迎え5月14日(木)東キャンパス11号館3階で開催されました。前半は、デュボン氏によるスペクタル『列島』の上演でした。歌を歌いながら、白い布と、大小異なる大きさの丸い革張りの手桶のような用具を用いて様々なポーズを取りながら叩いて音を出したりしながら行うパ



ローラン・デュボン氏によるパフォーマンス

フォーマンスでした。後半は、参加した学生たち全員によるワークショップが行われました。最初はデュボン氏、続いてデフォス氏の指導によるパフォーマンスが行われ、学生たちは自ら身体を動かし保育に舞台芸術がどのように位置づけられるかを肌で感じ、フランスの舞台芸術の一部を体験しながらセミナーが終了しました。

#### (3)就職支援

11月19日(木)、就職セミナーが開催されました。このセミナーは就職の決定している4年生が2・3年生に向けて体験談を話す形で行われ、公立幼稚園・保育所、私立幼稚園・保育所、小学校、福祉関係施設、企業・一般公務員の五つの分科会に分け開催されました。就職という人生の岐路を間近に控えた2・3年生は真剣な表情で先輩の姿を見つめ質問をしたり先輩方の体験談のメモを取ったりしていました。先輩のリアルな体験談を聞き、熱心に質問する3年生の姿が印象的で、事後の感想から大いに参考になったという意見が強く意義深いセミナーとなりました。

学生の基礎学力向上と併せて入学直前の就職への意欲をそのまま4年間継続させる為に、学部就職委員会を独自で立ち上げてきた学部教員全員の一層の努力を期待します。

#### (4)卒業論文制作・修士論文中間発表会

今年度も1月28日(木)に卒業論文・卒業制作発表会を行いました。1年次からの基礎ゼミ、更に3年次の専門ゼミに発展させ問題意識をまとめ上げて、各ゼミ毎に



特別公開講座 浜谷直人氏の講座の様子



特別公開講座 会場の様子



春を呼ぶ芸術フェスティバル

午前午後に分かれて発表しました。発表会も6回目を迎え少しずつですが、卒論や制作において年々進歩が見られ研究姿勢を持った保育者・教育者の養成が実を結んできております。更に大学院研究科に結び付けていきたいと考えます。大学院修士論文中間発表会は2月9日に行われ、活発な討議が展開されました。

#### (5)春を呼ぶ芸術フェスティバル

2月13日(土)には、近隣の市町村の保育所・幼稚園・小学校にチラシを配布すると共に、来年度入学予定者に参加を呼びかけて、3年生実行委員が独自に企画運営するフェスティバルを開催しました。学部学生の他学部にも負けない資質や感性を持ち合わせている事に対して自信を高めてもらう目的でスタートしたこのフェスティバルも7回目を迎えます。今年度は学部の学生が全てのプログラムの中心となり、二台・連弾・ソロのピアノ演奏、合唱、絵本の語りと映像と楽器を用いた読み聞かせのパフォーマンス、吹奏楽、ダンス、和太鼓、リズム体操等に、学部教員の独唱やピアノ演奏も加わり芸術大学の中の保育・教育系学部として、内容が充実し素晴らしいものとなりました。これを機に学生たちも自信につながったと確信しています。

#### (6)学生の就職状況

2月の時点で進路が内定した学生が87人(79%)です。その内訳は、公立小学校正規採用3名、常勤講師16名、保育所24名(公立5名、私立19名)幼稚園19名(私立19名)、施設職員10名、公務員2名、一般企業13名、留学・進学3名です。昨年同様現段階での就職内定率は低いのですが、例年発表の遅い公立小学校の常勤講師や保育所等の採用を待っている学生がいますので最終的には殆どの学生が内定を得るものと思われます。ま



和太鼓の演奏

た、今年度も小学校や公立保育所で卒業後に現場経験を積みながら努力し合格する卒業生も多くみられています。今後の努力に期待が膨らみます。

#### (7)教員移動

本年度末をもって、加藤義信教授(発達心理学)安藤淑江教授(国文学)伊藤孝照講師(算数教育)の三名の先生が退職されます。加藤先生は学部長を経験され、安藤先生は学部の前身である短期大学部保育科の時代からその発展にご尽力され、伊藤先生は学部創設からご尽力されそれぞれ学生からも信頼の厚い先生方でしたので本学部を去られることは極めて残念なことです。来年度4月から、算数教育系の溝口哲夫先生、教育学系の酒井宏明先生、日本国憲法の赤井朱美先生の三名の教員が着任されます。人間発達学部は発足して9年を経ました。新年度からは新しい教員の顔ぶれを含め「充実期」と呼ぶにふさわしい年度となるよう教員一同力を合わせていきたいと思ひます。

人間発達学部長 教授 星野英五



## 学生部報告

平素は、本学のために様々な方面からご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

早いもので、今年度も大学行事は卒業式を残すのみとなりました。大学はこの後は来年度の準備に入ります。来年度も教職員一同、教育と研究の質的向上に努めてまいりますので、どうかよろしくお願いいたします。

さて年度末に当たって、2016年度の教務および学生支援の関連で二点を報告させていただきます。

まず教務関係ですが、来年度は新入学生から成績基準の変更を行うことになりました（在学生の基準は変わりません）。これは文部科学省の要請を受けたもので、欧米での一般的な成績基準GPA（Grade Point Average）を導入するものです。これによって学生の学習意欲を向上させるとともに適切な修学指導を目指しますが、さらに教育上での国際間交流を円滑化することを考えております。この成績基準を導入することによって、外国の大学で取得する単位も互換することが可能となります。

従来は成績評価として「優」「良」「可」「不可」「欠席」「失格」でしたが、新基準では「優」の上に「秀」を設け、優秀な成績の内容をさらに区別します。またそれぞれの評価ごとにグレードポイント（GP）を与え、「秀」=4、「優」=3、「良」=2、「可」=1、「不可」=0とします。そして（履修科目の単位×GP）の合計／履修登録科目の単位数の合計=GPAとなります。この結果は大学

から学生本人と保護者に通知され、教員はこれに基づいて学習指導を行うこととなります。

つぎに学生支援についてですが、今年度はキャリア支援の観点から、総合科目内に新規科目「大学生になる」「キャリア1」「キャリア2」「インターンシップ」を設け、高校と大学の勉学の橋渡しから始まり、大学の各学年での自らの学修の位置づけを確認し、卒業後の進路を具体化することを援助することになりました。「大学生になる」は今年度開講し、教育的効果が少なからず上がったと判断していますが、来年度はさらに内容を向上させて行きたいと考えています。残りの三科目は実質上、来年度から開講されますが、とくに「キャリア1」では卒業後の社会での活躍を見越して、チームでの協同力・企画力・プレゼンテーション能力を身につけることを学びます。「キャリア2」は自分のなりたい将来像を、自分の特性を十分に認識した上でプランニングすることを目指します。また「インターンシップ」は、在学中に就業体験をするもので、企業などに赴いて実務を身につけ、それに基づいて、将来に向けてより適切な職業選択をすることを目的とするものです。

本学では今後も、教育の社会的貢献を念頭に、学生の皆さんの勉学に有効な制度的改革を行ってまいります。これからもよろしくお願いいたします。

学生部長 教授 橋本裕明

### 大学へのお問合せ先一覧

内 容	担当部署	電話番号	
学納金(学費)について	庶務会計課	東キャンパス (音楽学部・人間発達学部) 0568-24-0315 (代)	
成績について 証明書発行について	教務課		
休学・退学について 課外活動・大学祭等について 住所変更等について 就職について 資格取得講座について アルバイトについて その他学生生活全般について	学生支援課		
本学入試に関すること 本学大学院進学について 本学研究生・研修生について	広報入試課		
教員免許・学芸員資格について	教職センター(実習指導室)		
交換留学について	国際交流センター(学生支援課)		
生涯学習講座について	生涯学習センター(学院広報室)		0568-24-0359 (直通)
音楽学部主催の演奏会等について	演奏課		東キャンパス 0568-24-5141 (直通)
アート&デザインセンターで開催 する展覧会について	アート&デザインセンター		西キャンパス 0568-24-0325 (代表)
後援会について	事務局(事務部長)		東キャンパス 0568-24-0315 (代表)

大学事務局で保護者の方からのご質問やご相談にお応えする場合、以下のような確認をさせていただく場合があります。特に個人情報に含まれる内容に関しては、ご子女の「学籍番号」の確認、本人の確認、保護者の確認を行った後、ご質問やご相談にお応えします。大学に登録されている情報と異なる場合は、お問合せに応じることができませんので悪しからずご承知おきください。

なお、連絡先等を変更された場合は、お手数でも変更の手続きをなされますようお願いいたします。変更の手続きが行われなければ本学からのお知らせや成績等をお届けすることができなくなります。

## ■ 2015年度 東キャンパス芸大祭

2015年度の芸大祭のテーマは「PALETTE」です。この芸大祭で在学生、卒業生、地域市民の皆さんが一人ひとりの個性豊かな色を出し合い、出会い・ふれあいを楽しみ、新しい色を生み出す場を作り上げたい。そして多様なジャンルの音楽に出会い、様々な音色を楽しんでいただける場を作りたいという思いでこのテーマにしました。このテーマをもとに、実行委員一同、芸大祭に向け準備をしていきました。その中で、今年には出演者や大学職員を巻き込んで芸大祭を進めることが出来たことは、この先の芸大祭の飛躍につながったと思います。

今年度の芸大祭は屋外に設置したサブステージを実行委員で作成し、各サークルの発表、オペラや演奏で音楽の色を昨年度より強く出すことが出来ました。昨年度に引き続きサークル対抗や西キャンパスの書道サークルによるアートで中庭を盛り上げることが出来ました。2号館のメインステージ、5号館のロックステージ。それに加え今年から3号館のクラシックステージを復活させることができたことはテーマの意味でもある「様々な音色を作り出す」ことを実現できたと思います。2号館のメインステージでは、昨年度までには無かった音楽学部OBの先輩方によるバンド演奏やジャズオーケストラ演奏などを通して、今までに経験したことのない盛り上がりを見せることが出来ました。模擬店では昨年度よりさらに店舗数を増やしました。それに大学職員や外部からの出店や、西キャンパスのハンドメイド作品の出店などで、それぞれの個性や特色があふれた店舗になっていました。毎年、一歩ずつではありますが、よりよい芸大祭になってきています。この成長は実行委員一同だけでなく、在学生・職員・地域住民の皆様のご思いが大きくなればなるほど、もっと活気のある芸大祭が出来ると思っています。来年度は今年度よりもさらに盛り上がる楽しい芸大祭になることを私は確信しています。最後になりましたが、今年度の芸大祭は多くの方々を支えられながら、一緒に作り上げることが出来たことを心から感謝しております。ありがとうございました。



## ■ 2015年度 西キャンパス芸大祭

# まほろば

2015年度の芸大祭のテーマは「まほろば」です。誰もが一度は帰りたくなる場所をサブテーマに、名芸の芸大祭は初めて来る人、名芸の卒業生、地域市民がみなさん一緒になって盛り上げてくださる祭りです。ひとりひとりがまたこの大学祭に来たいと思ってもらえるようにこのテーマにしました。

10月24日(金)から始まる芸大祭に向け、どう3日間盛り上げていくか、名芸らしい芸大祭ができるかを大学一丸と

なって考えました。その結果とても大変でしたが、ステージイベント、外来アーティストイベントなど今年度は実行委員会が主催するイベント全てが成功に終わり、僕らも大きな達成感と団結力が生まれました。天候にも今年は恵まれ、自分にも皆さんにもいい思い出となるそんな3日間になりました。この大学の芸大祭の情熱、

盛り上がりは過去の先輩たちの熱意が継承され、今にも引き継がれていると思います。

次の芸大祭もみなさんの記憶に残る祭りになると期待しています。そして私たち見る側の人たちも、短いけれども思い出してまた行きたくくなるような楽しくみんなが笑顔になる3日間を大切にしていきたいです。

西キャンパス 芸大祭実行委員長 岡崎将大



# 皆さん受賞おめでとうございます!

2015年度の本学在学学生(学部学生及び大学院生)や卒業生の展覧会や各種コンクール等における受賞結果をお知らせいたします。受賞情報は2016年3月14日までに受賞者本人から、または大学を通じて大学に連絡があった情報を掲載しています。

## 音楽学部

日付	イベント名	主催	順位、受賞など	楽器など	学年・卒業期	氏名
<b>2014年</b>						
2月	2014カワイうたのコンクール	カワイ音楽コンクール委員会	最優秀指導者賞	声楽	98年3月卒業生	武田 美保
<b>2015年</b>						
2月	2015カワイうたのコンクール	カワイ音楽コンクール委員会	最優秀指導者賞	声楽	98年3月卒業生	武田 美保
5月3日	岐阜県国際音楽祭コンクール	岐阜県国際音楽祭実行委員会	専門コース ピアノ 一般I 第1位、審査員特別賞、岐阜県知事賞	ピアノ	大学院1年生	秀平 雄二
			ピアノ 大学生部門 第3位	ピアノ	3年生	中島 舞
			管楽器 大学部門 第2位	クラリネット	4年生	井上明日香
			専門コース 管楽器 一般I ジャーナリスト賞、第2位	フルート	卒業生	新野 智子
			管楽器 一般I部門 第3位、ジャーナリスト特別賞	クラリネット	大学院1年生	丹羽 夏望
			管楽器 一般I部門 ジャーナリスト特別賞	クラリネット	卒業生	原田 麻衣
7月23日	第3回山田貞夫音楽賞	山田貞夫音楽財団	ピアノ部門 山田貞夫音楽賞	ピアノ	卒業生	水越 晴菜
8月26日	第9回横浜国際音楽コンクール	横浜国際音楽コンクール審査委員会	ピアノ部門 一般Aの部 第1位	ピアノ	大学院1年生	秀平 雄二
			アンサンブル部門 2台ピアノの部 第3位、ロマン派音楽賞	ピアノ	院修了生	今村 岩田 洋平 晃
			アンサンブル部門 二重奏の部 第1位	フルート	2012年卒業生	横田 横田 愛 彩
			管楽器部門 一般Aの部 第3位	管楽器	2012年卒業生	横田 愛
9月27日	第21回みえ音楽コンクール	みえ音楽コンクール運営委員会	声楽部門 大学生・大学院生の部 第2位 声楽部門 大学生・大学院生の部 奨励賞	声楽 声楽	4年生 4年生	早川 あみ 山路真里奈
10月10日	大阪国際音楽コンクール	大阪国際音楽コンクール実行委員会	弦楽器部門ハーブの部 2位	ハーブ	1988年卒業生	高田 知子
			管楽器部門(木管) Age-Uの部本選 エスポワール賞	バス クラリネット	4年生	岩倉 彩乃
10月31日	第4回ウィーンオペレッタコンクール	ウィーンオペレッタコンクール実行委員会	プロフェッショナル部門 入賞	声楽	2011年卒業生	原 綾美
12月10日	第32回JPTAピアノ・オーディション	公益財団法人日本ピアノ教育連盟	地区予選優秀賞	ピアノ	1年生	佐々木唯道
12月13日	第2回名古屋青少年ピアノコンクール	なごや青少年ピアノコンクール実行委員会、特定非営利活動法人みどり音楽祭、公益財団法人名古屋文化振興事業団/名古屋市緑文化小劇場	一般の部 1位 名古屋市教育委員会賞	ピアノ	2010年3月卒業生	高岸 由佳
12月23日	クオリア音楽フェスティバル第6回オーディション	NPO法人con brioクオリア音楽フェスティバル実行委員会	コンサーティスト 大賞 一般の部 1位	ピアノ ピアノ	大学院1年生 大学院2年生	秀平 雄二 首藤 友里
12月21日	第25回日本クラシック音楽コンクール全国大会	一般社団法人日本クラシック音楽協会	ピアノ部門 大学男子の部 第5位	ピアノ	1年生	佐々木唯道
12月24日	第25回日本クラシック音楽コンクール全国大会	一般社団法人日本クラシック音楽協会	フルート部門 一般の部 第5位	フルート	2012年卒業	横田 愛
			ピアノ部門 大学生の部 入賞	ピアノ	1年生	黒木 七聖
<b>2016年</b>						
1月5日	第17回日本演奏家コンクール	日本演奏家協会	ピアノ部門 ピアノ部門 一般Aの部 特別賞	ピアノ	大学院2年生	首藤 友里
1月10日	第21回KOBE国際音楽コンクール	KOBE国際音楽コンクール実行委員会	優秀賞	ファゴット	院修了生	加藤 佑
			奨励賞	ピアノ	卒業生	和田 紋加
			奨励賞	バスクラリネット	3年生	黒住 恭子
1月16日	第3回岐阜ピアノコンクール	岐阜ピアノコンクール実行委員会	大学・一般部門 金賞	ピアノ	院修了生	岩田 晃
			大学・一般部門 金賞	ピアノ	卒業生	和田 紋加
1月19日	第1回K作曲コンクール	一般社団法人K国際コンクール	優秀賞	作曲	大学院1年生	蒔田 裕也
1月20日	第17回シヨパン国際ピアノコンクール in ASIA	シヨパン国際ピアノコンクール実行委員会	大学生部門 奨励賞	ピアノ	1年生	黒木 七聖
2月	2016年度国際芸術連盟音楽賞	国際芸術連盟	国際芸術連盟音楽賞	声楽	98年3月卒業生	武田 美保
2月13日	第1回東京国際ピアノコンクール	一般社団法人東京国際芸術協会	一般の部 奨励賞	ピアノ	2010年3月卒業生	高岸 由佳

## 美術学部

日付	イベント名	主催	順位、受賞など	学年・卒業期	コース	氏名	
2014年							
10/31~12/4	第6回紙の アートフェスティバル	富士市教育委員会	入選	1983年卒業生	洋画	村上 典子	
2015年							
3月21日	千代田アートフェア	3331 Arts Chiyoda	hondy賞 インターアート7賞 入選 丸山直文賞	2010年卒業生	洋画2	山田なつ実	
6月6日	トーキョーワンダーウォール 公募 2015	公益財団法人 東京都歴史文化財団 トーキョーワンダーサイト	入選	2010年卒業生	洋画	中尾慶一郎	
				2012年卒業生	洋画2	田中 里奈	
				大学院2年生	同時代表現研究	濱口 綾乃	
6/9~14	全日本アートサロン絵画大賞 あいち入選作品展	全日本アートサロン絵画大賞展 実行委員会、産経新聞社	入選、佳作	2年生	洋画	滝沢 美穂	
10月22日	改組新第2回日展 東海展	改組新第2回日展	入選	中日賞	2010年卒業	日本画	磯部 絢子
				1995年卒業生	日本画	岡本 昌子	
				2014年卒業生	日本画	鷲見真由子	
				4年生	日本画	田中 志歩	
				2011年卒業生	日本画	長瀬あやみ	
				大学院2年生	日本画	西川詠美子	
				1999年卒業生	日本画	野澤 朋恵	
				1994年卒業生	日本画	林 真	
				1994年卒業生	日本画	福岡 正臣	
				2005年卒業生	日本画	福本 百恵	
11月13日	Taiwan Ceramics Biennale International Competition	臺灣国際陶藝雙年展	Merit Prize (優選)	非常勤講師	陶芸	田中 哲也	
11月19日	アーツ・チャレンジ2016	あいちトリエンナーレ 地域展開事業実行委員会	入選	大学院2年生	同時代表現研究	山口 諒	
				2012年卒業生	洋画2	水野 里奈	
11月22日	第34回富士山 学生書写書道展	毎日新聞社	審査委員長賞	最優秀団体賞	—	—	書道アート
				県大学書学会会長賞	3年生	洋画2	池上 夢与
				県私学協会会長賞	3年生	洋画2	藤原 葵
				3年生	洋画2	菊地日菜子	
				3年生	洋画2	阿部 孝一	
				1年生	洋画	海野 悠子	
				2年生	洋画2	伊藤 真	
				2年生	洋画2	足立 華央	
2年生	洋画2	村松 諒一					
3年生	洋画2	小笠原盛久					
2016年							
2月1日	トーキョーワンダーシード2016	ワンダーシード2016事務局	入選	大学院2年生	同時代表現研究	奥村 岳史	
				大学院2年生	同時代表現研究	濱口 綾乃	
				2005年卒業生	洋画2	鈴木 浩之	
				2012年卒業生	洋画2	田中 里奈	

## デザイン学部

日付	イベント名	主催	順位、受賞など	学年・卒業期	コース	氏名
2015年						
—	新世代サンデー賞	クラブサンデー	佳作	2014年卒業生	テキストスタイル デザインコース	倉地 千尋
7月31日	北名古屋 市制10周年記念 ロゴマーク及び キャッチフレーズコンペ	北名古屋市	グランプリ副賞	2年生	ヴィジュアルデザイン	甘粕 友貴
						田口佳世子
						城 泉水
			準グランプリ 副賞	3年生	メディア コミュニケーション デザイン	土松 由依
						神田 有作
						須川 美里
						鈴木 春佳
藤本 幸奈						
森 理紗						
服部 葵						
8月2日	第49回日本サインデザイン賞	公益社団法人 日本サインデザイン協会	奨励賞	2009年卒業生	スペースデザイン	松尾 祐弥

8月21日	自動車技術会	公益社団法人自動車技術会	2014年度 技術部門貢献賞	専任教授	インダストリアル デザインコース	片岡 祐司
8月30日	第100回記念二科展	公益社団法人二科会	入選	4年生	メディアコミュニケーション デザイン	山田 圭織
10月2日	日本パッケージデザイン展2015とやま パッケージデザインコンペティション 「お菓子を包む」	公益社団法人 日本パッケージデザイン協会	公益社団法人日本 パッケージデザイン 協会賞	4年生	ヴィジュアルデザイン	渡辺 純江
11月3日	第6回ポスターグランプリ コンペティション	愛知・岐阜・石川・三重 印刷工業組合	優秀賞	3年生	メディア コミュニケーション デザイン	伊藤 汐梨
			特別賞			山下 恵実
			協賛会社賞			小栗 佳菜
11月19日	ボージョレ・ヌーヴォー2015 セントレア限定ラベルデザイン	中部国際空港	優良賞	2年生	ヴィジュアルデザイン	甘粕 友貴
11月22日	第34回 富士山学生書写書道展	毎日新聞社	審査委員長賞	1年生	—	水野 真由
			審査委員会賞	1年生	—	橋本 桂吾
				2年生	—	母袋 結実
				2年生	—	山下 智大
				1年生	—	施 亜希子
11月24日	日本タイポグラフィ年鑑 2016	NPO法人 日本タイポグラフィ協会	学生部門 グランプリ	研究生		澤邊 美駒
			学生部門入選	4年生	ライフスタイル デザインコース	北村 友美
2016年						
2月6日	第8回 武井武雄記念日本童画大賞	日本童画美術館	入選	4年生	メディアコミュニケーション デザイン	小林なな子
3月5日	JIDA中部ブロックデザイン賞	日本インダストリアル デザイナー協会	優秀賞	4年生	セラミックデザイン インダストリアルデザイン	桐山 優理
			最優秀賞			黒部 武輝

## 人間発達学部

日付	イベント名	主催	順位、受賞など	学年・卒業期	氏名
2015年					
8月30日	第11回全日本学生 ラート競技選手権大会	第11回全日本学生ラート競技 選手権大会実行委員会	自由演技の部 男子跳躍 第7位	2年生	古田 裕介
11月22日	第34回富士山学生書写書道展	毎日新聞社	毎日新聞社賞	2年生	姫野 綾花

## NUA国際化ビジョンの策定 名古屋芸術大学の国際化推進に向けて

本学では1994年にN U A 国際交流センターが設置されて以来、これまで積極的な国際交流活動が行われてきました。その結果、現在では海外24校との姉妹校提携がなされ、欧米・アジア圏を含め多くの大学との間で、学術研究交流、外国人留学生の受入、国際的に通用する人材育成教育を行っています。こうした名古屋芸術大学の強みを更に戦略的に前進させ、国際競争力を獲得するため、国際化交流センターでは本年度、本学の国際化推進に対する課題を整理し、以下の7項目からなる「N U A 国際化ビジョン」を定めました。今後、2020年度を目標とし、このN U A 国際化ビジョンを基に具体目標を設定し、その達成のための具体策を講じて参ります。

国際交流センター長 水内智英

### ①学内の国際化(外国人教員、外国人留学生の受入、受入に伴う環境整備)

外国人教員、外国人留学生の受入を推進し、受入に伴う環境整備の充実を図ります。

### ②学生の海外留学促進

海外研修、交換留学生、語学研修の見直し、海外留学説明会の充実を図り、実績に対して10%増を目指します。

### ③外国語教育の充実

海外語学研修の開催(英語圏)。学内での語学研修の充実を図ります。

### ④外国における就業力の育成、外国人留学生の日本での就職支援

外国人留学生求人情報コーナーを設置し、就活相談を支援、外国人留学生のための就職説明会を開催します。

### ⑤海外大学等の連携

姉妹提携校との連携強化を図り、提携のない地域の大学との学術交流を目標に、更なる国際交流を目指します。

### ⑥大学等の所在する地域の地方自治体・企業・地域住民等のグローバル化への貢献

以下の2つの交流の充実を図り、地域に根付いた交流の機会を増やします。

1. 北名古屋市国際交流子ども芸術教室を開催(西)
2. 北名古屋市国際交流留学生によるふれあいコンサートの開催(東)

# 2015年度 ブライトン 大学賞



2015年度ブライトン大学賞授与式が、3月4日(金)名古屋東急ホテル3階錦の間において開催いたしました。今年度のブライトン大学からの先生方は、Mr. Alan Boldor(アート&ヒューマニティ学部カルチュラル・エンゲージメント&イノベーション部門 副学長)と Mr. Duncan Bullen(アート学部アカデミック・プログラム・リーダ)の2名が来日されました。3月1日(火)のオープニング行事出席後卒業制作展の各会場を廻りノミネート作品を中心に審査され各受賞者を決定されました。また受賞候補者の授与式参列への連絡では、電話での会話ですが受賞者の喜ぶ姿が伝わってきました。

授与式は竹本学長先生の挨拶に始まり、ブライトン大学 Mr. Alan 教授、Mr. Duncan 教授による挨拶及び講評の後、各賞の表彰状授与及び講評と続きました。

発表は2013年度からブライトン大学からの方針で当日発

表のため、10名の受賞候補者のみならず参列者も緊張な面持ちで発表を聞き入っていました。発表は佳作6名・奨励賞2名・優秀賞1名・グランプリ1名の計10名が順番に発表されました。

受賞候補の学生達は、何時自分の名前が呼ばれるか緊張していました。ブライトン大学の先生方は、各作品について丁寧に講評を述べられました。

祝賀会は、飯田後援会会長の挨拶から始まりました。各受賞者達は、ブライトン大学の先生方に講評についてのアドバイスを受たり、指導していただいた各先生方に感謝の言葉を述べる姿が見受けられました。

また今年度も3名のブライトン大学派遣学生の協力をいただき式典を進めることが出来ました。毎年ブライトン大学と本学との交換留学生も活発となりこの交流事業がさらに実りあるものとなると思います。

## 2015年度ブライトン大学賞受賞者

賞	コース	氏名	作品名
グランプリ	デザイン学部デザイン学科 ライフスタイルブロックデザインマネジメントコース	北村 友美	「文字と骨格と筆記具の関係」
優秀賞	美術学部美術学科ガラスコース	饗庭美菜子	「随分長くそこにいた」
奨励賞	デザイン学部デザイン学科 ライフスタイルブロックデザインマネジメントコース	安藤 友美	「日常茶飯図 —絵とことばで知覚する日々の動作—」
	美術学部美術学科洋画2コース	吉村 理華	「重層の身」
佳作	デザイン学部デザイン学科メディア&コミュニケーション ブロックメディアコミュニケーションデザインコース	阿部日向子	「詩集『香水夜話』」
	美術学部美術学科アートクリエイターコース	伊藤 公子	「ありふれる光景」
	デザイン学部デザイン学科ライフスタイルブロック デザインマネジメントコース	渡部 有喜	「おのおの郵便局」
	美術学部美術学科陶芸コース	宇佐美容子	「呼吸」
	美術学部美術学科版画コース	西村 怜奈	「過ぎ去ったY地路、道ばたの立ち往生、 行き止まりのない一本道」
	美術学部美術学科洋画2コース	飯田 美穂	「世界 —water—」



グランプリ 北村友美 「文字と骨格と筆記具の関係」



優秀賞 饗庭美菜子 「随分長くそこにいた」

# 後援会補助公開講座実施報告

美術学部

## 旧加藤邸アートプロジェクト2015「記憶の庭で遊ぶ」

北名古屋市の国登録有形文化財「旧加藤家住宅」を会場とした「旧加藤邸アートプロジェクト〈記憶の庭で遊ぶ〉」が、今年度も11月14日(土)～22日(日)まで開催されました。

この展覧会は、もともと造形作家の庄司達氏が本学美術学部立体造形コースの教授として在職中の2009年に、北名古屋市歴史民族資料館の市橋芳則学芸員と、回想法センターを有する旧加藤家住宅を会場に、芸術やデザインを探求する学生や卒業生が、旧加藤家住宅という場から触発されたイメージが、「記憶」をキーワードにしてどのような造形となってこの場の記憶を新たにすることを目的とする展覧会として「旧加藤邸アートプロジェクト《記憶の庭で遊ぶ》」を企画したのがきっかけでした。

庄司氏が定年退職後は、外部委員として加わっていたが、アートクリエイターコースの専任教員 西村正幸と松岡徹、高橋綾子に非常勤講師の磯部聡の計5名が実行委員となり、毎年企画運営を行っています。

この展覧会は、通常の美術館やギャラリーなどでの展示と異なり、文化財である屋内と庭を傷つけたり損なったりしないように配慮しつつ、多くの制約がある中で、古い日本家屋の雰囲気やどう対峙した作品を制作するかの力量が問われます。

出品者は以下の通りです。

■学生の出品は、全員美術学部

- 饗庭美菜子(ガラスコース4年)
- 縣智奈(アートクリエイターコース陶芸・ガラスクラス2年)
- 出口俊一(アートクリエイターコース彫刻クラス3年)
- 宇佐美容子(陶芸コース4年)
- 大沢理沙(アートクリエイターコース版画・平面クラス2年)
- 河合美月(陶芸コース4年)
- 木下千穂(アートクリエイターコース彫刻クラス2年)
- 吉長佑衣(アートクリエイターコース1年)

■卒業生による委嘱出品は

- 飯田崇嗣(美術学部大学院工芸研究〈ガラス〉2年)
- 尾野訓大(美術学部大学院同時代表現研究〈版画〉修了)
- 道楽同盟(旧立体造形コース卒業生佐竹裕太、増成峻平によるユニット)
- 川崎和美(デザイン学部メタル&ジュエリーコース研修生)

■特別出品は

- 松岡徹(美術学部アートクリエイターコース准教授)
- 磯部聡(美術学部アートクリエイターコース非常勤講師)

企画：旧加藤邸アートプロジェクト2015実行委員会  
 主催：名古屋芸術大学美術学部、北名古屋市教育委員会  
 後援：名古屋芸術大学後援会、名古屋芸術大学美術総合研究所  
 協力：名古屋芸術大学美術学部アートクリエイターコース  
 会場：旧加藤家住宅(北名古屋市六ツ師704-1)

美術学部長 西村正幸

例年は美術学部、デザイン学部から作品の展示、音楽学部から音楽パフォーマンス、人間発達学部から子ども向けワークショップの参加がありますが、今年度は美術学部、デザイン学部、音楽学部の3学部からの参加となりました。

出品作家は、特別出品作家2名、委嘱作家4組、公募作家8名の計14組が選抜され、約半年間の間に、何度かプレゼンテーションを重ね、制作する作品を固めて行きました。特に学生で参加する出品者にとっては、プロの作家と同じようにプレゼンテーションを重ねることで、作品のアイデア・プランニングから完成までのプロセスを経る経験は、非常に貴重な経験となりました。

今回は、前回までの反省を踏まえ、出品作家の人数を絞り込み、一つの部屋にできるだけ1作家だけの展示を基本とし、観に来られた方が作品を見やすいようにとの配慮をしました。

また、恒例の音楽学部音楽療法コース学生、卒業生、教員による音楽パフォーマンス『記憶の音で遊ぶ』が最終日に開催され、この音楽パフォーマンスを毎年楽しみにして来てくださる市民の方々に、今年も癒しの時を提供することが出来ました。



出口俊一君の作品



松岡徹准教授の作品

## 後援会補助公開講座実施報告

デザイン学部

### 11月21日(土) 於：B棟 大講義室 向井周太郎特別講演「デザイン学を再考する」

11月21日(土)に戦後日本のデザイン学研究の基礎を築き上げ、いまなおその第一人者である、向井周太郎氏をお招きして特別講演会を開催した。向井周太郎氏の東海圏での講演は過去長らく実現しなかったものでもあり、その言葉を聞こうと学外からも多くの方々にお越し頂いた。

本学のデザイン教育・研究は、デザイン科ではなくデザイン学科の名の下に行われている。そもそも、デザインの「学」とは何を意味し、どのような行為なのであるか。私たちはこれまでそれが意味することについて深く考えたことがあっただろうか。このことに対する答えを求めようとする時、デザイン学の根本へと立ち返って考える必要に迫られる。今回の講演はそういった意味でも意義深いものとなった。

近年のデザインには様々な批判の声が聞かれる。市場の動向に追従してばかりいることへの批判、また一方では個人的な嗜好に依りすぎているという批判、外見の装飾的追求に陥っているという批判、我々が直面している深刻な社会的課題への答えが見い出せていないという批判。デザインに対してそうした即物的な批判を向けることは容易い。対して、向井周太郎の視野はデザイン行

為のさらに深部へと向けられている。デザインの専門的特質を「専門のない専門である」とし、その閉ざされた専門性の境を軽々と飛び越える。人類のあらゆる知を接続することにより、真なるものを見極め、向井周太郎は「生の哲学」を語る。「生成する生のデザイン学」は、デザイン領野はもとより、世界に対する救済の概念であり、希望の原理だといえる。

今回、向井氏には、その思考の方法論としての「生のコンステレーション(星座)」の披露から始まる、デザイン学の理念と形成のための七つの視点『「生」の全体性としての生活世界の形成』『近代デザインの真の意味とは一その課題の再考』『内発的発展としての近代化の環境形成』『自己再生的文明の形成とデザイン』『デザインを制作の根源から考える』『社会(ソーシャルデザイン)一オイコス(oikos)の思想と再建』『「生命知」ないし「生知」としての美意識・美学の形成とデザイン』について語っていただいた。

広大で深遠な思索の内にそれぞれがそれぞれにとってのデザインの真の意味に立ち返ることのできる豊かな時間であった。

デザイン学部 教授 萩原 周



会場全体図



講演会の様子(質疑応答)

## 後援会補助公開講座実施報告

人間発達学部

### 講演テーマ「発達障がい児など困難を抱えた子どもの保育 —自己肯定感と仲間意識の視点から—」 講師 浜谷直人氏

人間発達学部では、2015年9月19日土曜日に、ウィルあいち(愛知県女性総合センター)にて、首都大学東京教授 浜谷直人氏を講師にお招きして、特別公開講座を開催した。講師からは、おおきく3つのことを中心に話があった。

1つ目は、「支援対象児がいるのではなく、支援対象

状況がある」ということ。2つ目は、「ルールを厳しくいうこと、ルールを守る子供を褒める子供の危険性」ということ。3つ目は、「自己肯定感と子供を褒めることの危険性」ということ。これらについて巡回支援員として、実際に保育の現場で見聞きした事例を交え、発達障がいを持つ子供たちの支援について話があった。

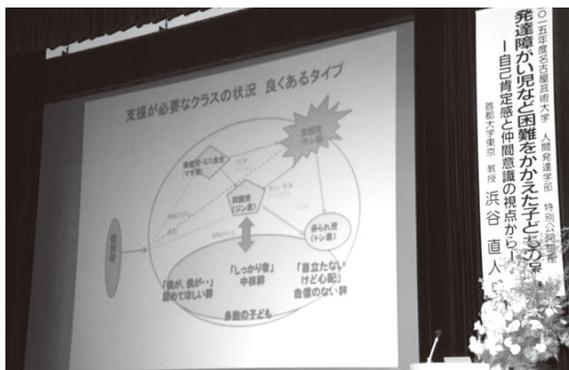
クラスのお互いが「あの子のいいところ、こうだよね」「こういうところは頑張ってくれたよね」というように互いに認め合うような関係が作られる、子供の世界に一度寄り添いながら、その世界を好きになって、楽しくなっていくことで、先生がその保育を楽しんでいることが大切である。

講演会の参加者は、一般の方が236名、学生が219名だった。講演後の意見や感想に「この子がいるからクラスが荒れる」のではなく、「どう保育したら楽しく遊べる



か」という事を考えて、今後の保育を見直していきたいなと思います。(一般)、「切り替えと片づけの構造」にとても興味を持ちました。満たされなかった気持ちをどのように高めていき活動を楽しめるように気持ちを切り替えていくか。気持ちが変わる瞬間を大切にしていきたいです。遊びから子供の性格や気持ちを知ることができるので、先生になったら、遊びの時間を大切にしたいです。(学生)など、有意義な学習の場となった。

こども発達学科 准教授 久保 博満



## 親の想い

### 大人になるということ

■■部 ■年 母 飯田康子

男の子のせいばかりで会話がなく、大学を決めた時も細かい相談もなく、彫刻からガラス科に変わった時もすぐやりたいという情熱は感じましたがそれを説明されることもなく、子供のペースで進み、卒業まで来てしまいました。もっともっと話したかったなというこちらの気持ちはありましたが、言ってもきくと反対される、否定されると思ったのか就職の話も聞かなければ言わない子でした。大人になるということはどんなことなのでしょう？高校生から大学に入り、校則や規律のようなものから解放され、少し背伸びした気持ちを味わいバイトも始め、お金をもらうということの厳しさを少しは感じたと思います。院へ進んだので6年間大学へ通い、就職も思うように決まらず、何回も落ちて、挫折感も味わったと思います。自分はどのような人間でどういうことが出来るのか真剣に悩んだと思います。

親としてはどんな職業でもいい、目の前にあることに真剣に取り組む姿勢でいることが出来ればそれでいいと思います。きつと自分にとって必要なものを選んで進んで行ってくれると信じています。

先生からは大学に入ったことを思えば大人になりました、と言っただけなのですが私にはまだピンときません。あと何年かすれば実感として感じる事が出来るのでしょうか？好きで選んだ芸術の勉強を今後も自分の生活を豊かにするために細々でも続けていってもらえればと思います。

### 夢に向かって

人間発達学部 子ども発達学科 2年 母 水谷美枝子

20歳になった娘。3歳年上の兄、1歳年下の妹の3人兄弟の真ん中で育って来ました。小さい頃から人懐っこく、年子の妹がいるせいもあってか、小さい子の世話をするのが大好き。小学低学年の頃から大きくなったら幼稚園の先生になるという夢を持っていました。ですから、保育士、幼稚園教諭の資格がとれる大学を探しました。正直、名芸大は第1希望ではありませんでした。入学式の時は知り合いもなく、少し嫌だという気持ちでした。でも、すぐに気の合う友だちがたくさんでき、不安もなくなったようです。それどころか今は名芸大最高！と。先生方にも恵まれ、熱心なご指導のもと、楽しい大学生活を送っています。そんな娘を見て遠い昔の自分を思い出したりもしています。(実は私も同じ道歩んできました。)

娘がしたいことはこれまでも応援してきました。幼稚園の頃から続けているダンスでは、インストラクターのアシスタントとして、幼稚園児クラスのお手伝いをしています。今、2週間の保育園実習が始まり、忙しい中にも楽しそうに準備する娘の姿を見て、こちらまで嬉しい気持ちになります。名芸大で楽しい大学生活を続けながら、いろいろな経験を重ね、幼稚園教諭になる夢をかなえてくれることを願います。

# 子の想い

## 私の大学生活

音楽学部 ■■学科 4年 望月 茜



大学卒業。あっという間に過ぎていった4年間ですが、本当に「刺激的な4年間」であったと自信を持って言うことができます。

学内だけでなく学外でも演奏する機会をたくさん頂き、とても充実した音楽活動をすることができました。

四年間の集大成でもある卒業試験では、自作曲である「Trial」を演奏しました。

“試練は、私を強くする。”そんな思いを詰め込み、作った曲です。

年に一度行われる電子オルガンコースの定期演奏会“earth echo”にも4年連続で出演させていただくことができました。今年は同大学のドラム専攻・ギター専攻の学生と共演をし演奏だけでなく、ステージングにもこだわった演出を心がけることができ、大変得るものが多かったと感じています。

また、恐竜の住む世界をイメージして作った自作曲「Dinosaur live in nature」が、豊橋市にあるのんほいパーク内自然史博物館のテーマ曲として使っていただけることが決まりました。

セッションやレコーディングなど、何かやりたい！一緒に作り上げたい！と思ったときに、すぐに叶う環境だということをととても幸せに思っています。いろいろな楽器とセッションしてきた経験により、入学前よりも“音楽の幅”が広がったのを実感しています。最高に素敵な仲間たちと音楽をしてきたこの4年間は、私にとってかけがえのない大切な宝物です。

卒業後も挑戦してみたいことがたくさんあるので、お世話になった方々への感謝の気持ちを忘れず、音楽と末永く付き合っていきたいです。これからは、大学で学んだことを活かしつつ、今まで以上に“感動を共有できるプレイヤー”を目標にがんばります。

## 仲間と一緒に自分を高める

音楽学部 ■■学科 3年 片岡美音

「わあ、きれい」この世のものとは思えないほどの美しさの夕日。九十九島の海に沈む太陽です。今年の門下旅行での出来事です。私は大学に入ってから、とてもたくさん旅行をしました。今回の旅行のように楽器を持たない旅行もありますが、ほとんどは演奏つきの旅行でした。

一番印象に残っているのは、1年生の時にスペイン・フランスへ演奏旅行に行ったことです。

入学してすぐに行くことになりました。初めての海外旅行です。しかも演奏もしなければならぬものでした。練習もたくさんしました。先輩方に交じっての練習は大変でした。でも、海外で私たちの演奏を楽しみに待っていてくださる方々の期待に応えることはとても意義がありました。演奏が終わってからのフランスもとても感動しました。

何もわからなかった、またがむしゃらにいろいろな事をこなしてきた1年生から少しずつ、責任を感じる役割をいただく上級生に近づくと、仲間をまとめたり、練習が円滑に進むように練習計画を作ったり、パート割をしたりすることが増えてきました。

人と関わるのが苦手な私にとって、とても大変なことでした。でも、避けて通れない、やらなければならない事でした。計画を立てても不備を指摘されたり、うまくいかず反省したりの日々でした。また、仲間同士の連絡に言葉を選んだり、返事の有無でやきもきしたりと心が落ち着かない時がありました。演奏会を一つずつこなしていくことにより、要領を得たり、人との関わり方を勉強したと感ずることができました。

大学に入学する前は、人と関わるのが苦手、教科の勉強も必要性を感じないことが多かった学生生活でした。登校を渋ることもありました。共通の目標、完成をもった仲間を得た大学生活は、とても有意義です。仲間と一緒に自分を高めることができていると感じる今日この頃です。



## 名古屋芸術大学音楽学部 第43回卒業演奏会

2016年3月10日、しらかわホールで第43回卒業演奏会が行われました。

今年度は声楽4名、ピアノ5名、弦管打7名、電子3名、の計19名の学生が出演し4年間勉強した技術の結集ともいえる演奏を披露し、どの学生も成績優秀者として恥じない立派な演奏で、ほぼ満員の客席からは盛大な拍手が惜しみ無く送られました。これを機に社会に力強く巣立ち、又これからの活躍がとても楽しみに思った演奏会でした。

演奏学科主任 教授 谷口龍博



## 名古屋芸術大学大学院音楽研究科 第18回修了演奏会

2016年3月3日(木)三井住友海上”しらかわホール”にて本学、大学院音楽研究科の第18回修了演奏会が18時より行なわれました。今回はこれまでのオーケストラによる伴奏ではなく、通常のピアノによる伴奏のスタイルで行なわれ、声楽3名、ピアノ1名、トランペット1名、作曲1名の計6名によるコンサートとなりました。

2年という決して長くはない研究時間ですが、出演者の皆さんにとって思う存分の成果が出せたコンサートであったと思われまます。

関係者のみならず、常連のお客さんによる多くの暖かい拍手が送られ、大変心強い気持ちと同時に、今後もさらに質の高い充実したコンサートを作ろうという気持ちを新たにしました。

大学院音楽研究科 教授 星 順治



## 名古屋芸術大学美術学部 第43回卒業制作展

2016年3月1日(火)～3月6日(日)愛知県美術館ギャラリー、名古屋市民ギャラリー矢田、名古屋芸術大学西キャンパスA&Dセンターにおいて美術学部、デザイン学部の卒業制作展が開催されました。



美術学部の絵画においては時代的背景もあり例年に比べ具象表現、落ち着いた色調の力作が揃い、矢田会場では多様な仕事が一堂に見られ、楽しい空間を作り上げていました。デザイン学部はよく鍛えられた素晴らしい作品が揃い、リサーチの深さが重要であると実感しました。また開催時に見られた学生のプレゼン力から日頃の多面的な学習の成果がよく出ていたと感じられました。ご来場頂いた方々にも学生の研鑽を重ねた表現の成果を感じて頂けたと思います。

卒業制作展委員 准教授 荒木紀江



## 名古屋芸術大学大学院美術研究科 第20回修了制作展

第20回目の大学院美術研究科修了展が、名古屋市民ギャラリー矢田にて開催されました。

今年度、美術研究科は日本画制作研究2名、洋画制作研究4名、工芸(ガラス)制作研究1名、同時代表現研究11名、計18名が出品しました。

学部4年間と大学院2年間の計6年間の集大成として見応えのある展示となりました。

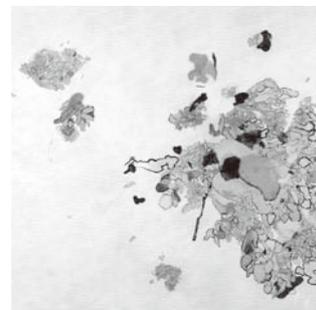
今年度の修了制作は、描く力を中心に、様々な素材へのアプローチがしっかりと個々のものとなっていることが特徴的で、大学院生ならではの力量を十分に発揮できていると感じさせられる展示でした。

修了制作で持続して出した力を、出しきって終わりになるのではなく、休むことなくぜひ継続させ、更に観る者感嘆させる作品を生み出し続けてほしいと願います。

美術学部長 西村正幸



奥村岳史君の作品



近藤夕琴さんの作品

## 名古屋芸術大学大学院デザイン研究科 修了展

名古屋芸術大学大学院デザイン研究科は、5つの研究領域(ビジュアルデザイン)〈メディアデザイン〉〈ライフスタイルデザイン〉〈3Dデザイン〉〈クラフトデザイン〉からなり、デザイン分野における高度な専門知識や技能を習得し、社会に貢献することを目的とし研究を行っております。

アジアの国々との交流が産業、政治、文化のあらゆる面で進んでいる現在、日本と世界を繋いでグローバルに発展活躍できる人材を輩出できる研究機関であることを目指しています。今年度の修了制作展は、本学学部から研究を継続していたもの、中国やタイなど自国でのデザイナー、就業経験を経て、発展的なグラフィックデザイン研究のため、また日本のアニメ、ゲームに興味をもち新たな研究のためと海外から本学へ留学してきた学生たちなど7名によるものです。指導教員とそして専門領域をこえて彼らが共に学び

共に理解と研究を深め、自らの答えを模索した2年間の成果を発表しました。

日本でゲーム会社に入って3DCGクリエイターになる夢を持って学んでいた麻さんは、努力が実を結び日本のゲーム会社への就職を果たしました。今後の活躍を期待しています。

デザイン研究科長  
教授 櫃田珠実



「豊橋筆」と「杉浦制筆所」の  
ブランドデザイン  
買 暁峰



メディアデザイン「奇襲する兵士」  
麻 翔

# 私 が 就職内定をもらうまで



## がむしゃらになって

音楽学部 音楽文化創造学科  
音楽ビジネス・ステージマネジメントコース  
4年 増田春香

私は、「誕生日までに内定もらう。」を目標に就職活動を始めました。しかしそのとき「音楽関係の仕事をしたい。」「テレビ局やラジオ局での仕事に興味がある。」などぼんやりとしたビジョンしか持っていませんでした。漠然と就職サイトを見て、少し興味がある企業には書類を提出するという感じでした。

ある日、音楽事務所のグループ面接を受けたときに、入社後のビジョンをすらすら答える受験者に圧倒され、あまり考えていなかった自分はとても恥ずかしかったです。面接に対する準備、心構えが足りなかったことを反省しました。このことがきっかけで、ただ興味を持った企業に書類を送るのではなく、入社後の自分の姿をしっかり考えて行動するようになりました。

それから、先輩にも相談もしました。「私の性格の明るさやコミュニケーション能力を活かせる仕事は必ずある。

1年目が大事になるから、がむしゃらになって頑張れる、頑張りたいと思う会社に入社してほしい。」とすごく心に響く言葉をもらいました。この言葉で、今までふわふわとしていた気持ちが締まった気がしました。そして、学生支援課の方にもたくさんお世話になりました。志望動機や自己PR文をどのようにしたらより熱意が伝わるか、自分らしさが伝わるかを添削していただきました。

反省後に提出したテレビ制作会社の選考へ進み、面接時には自分の明るい性格を発揮し、はっきりとした口調で答えたり、笑顔で対応したりして、尚且つしっかり志望動機、自己PR、入社後のビジョンなど答えることができました。結果誕生日までに内定をもらう目標を達成することができました。

内定後に、人事の方と面談をする機会がありました。試験を通して「毎回自分の意見をしっかりと答えることができていた。」「コミュニケーション能力が高く、新しい環境でも心配がないと感じた。」と感想をおっしゃって下さいました。この言葉に恥じないように、4月から新しい環境での生活に不安もありますが、私は私らしく仕事に励み、少しでも早く成長できるように頑張りたいと思います。

(株式会社トラストネットワーク 内定)



## 思い詰めないこと、 引きずらないこと

美術学部 美術学科  
彫塑コース 4年 林本奈都美

私は就職活動を4年生の8月末頃から始めました。これは一般的な学生の方と比べるとかなり遅めだと思います。この時期から始めたのは前期に実習あり、それに伴っていくつかの課題や勉強があったことが理由です。実習と就職活動を両立できる学生もいますが、私にはそれが出来る器用さはなかったのでこの時期から活動すると決めていました。ただ実習に支障が出ない程度の活動は5月頃から少しずつしていました。具体的には就職先をインターネットで調べるくらいの簡単なことです。

そこで8月末に開催する愛知の中小企業合同説明会を知りました。この説明会では企業の経営者の方と直接に話すことができ、そこに魅力を感じ参加しました。実際に話を聞いて、経営者の方の考えに自分が納得できる会社は就職しても続けやすいと思ったからです。もちろん入社してみなければわからないことが、正直な話ほとんどだと思います。でもだからこそ自分の希望する条件を満たしていても、入社前に合わなさそうだなと思った会社は選びませんでした。私たちは会社から選ばれる立場でもありますが、その前に会社を選ぶ立場でもあります。内定をもらい就職することは、あくまで通過点でしかありません。就職して続けてい

けそうな会社なのかどうか経営者・従業員の方を見たり話したりして選びました。その後合同説明会でご縁のあった企業を受け内定をいただけました。

選考内容は筆記試験やグループワーク、ディスカッション、面接と様々ありました。そのための色々な準備の中で最も気を付けたのは、気持ちを一定に保つことです。

就職活動を始めてから終わるまでの時間は誰にもわかりません。短い人もいればそうでない人もいます。いつ終わるのかわからない不安の中で、気持ちが折れてしまったら何もできません。そこから立て直すのはとても苦労します。

そうならないために私は必要以上に思い詰めない、いつまでも引きずらないことが重要だと思いました。そのため私は選考の前に「これが終わったら好きなお菓子を食べてよう」と思って挑んだこともありました。また失敗した時でもすぐ反省して対策を考えた後、最後は「死ぬわけじゃないし、まいつか。」と思うようにしていました。例え完璧なパフォーマンスをしたとしても、落ちる時は落ちます。単純に運が悪いことだってあります。だから出来る限りの準備も反省も対策もした後は、その力がちゃんと発揮できるように気持ちを軽くするため適度に好きなことをしました。そういうことを繰り返して、何とか潰れずに私は就職活動を終わることができました。

最後に、内定をもらうまでの工程は一人一人全然違うと思います。だから色々な人の話を聞いて、自分にあった方法を実践していけばいいと思います。大変なことも多いですが、成長するチャンスだと思って頑張ってください。



## できることを精一杯

デザイン学部 デザイン学科  
メディアコミュニケーションデザインコース  
4年 柴田琴音

私の就職活動を振り返って、何社も企業に応募したり、OB、OG訪問を積極的にしたり、皆さんのお手本になれるような事は何もできなかったと思います。

ただ、私の性格上、課題を期限内にきちんと提出するような生真面目さと同じ感覚で、就職活動をしていました。課題を期限を守ってきっちりこなし、授業にもちゃんと出る、といったようにコツコツと地道にやってきたことが結果的に、内定に繋がったのだと今では思います。

3年の後期、春休み直前にインターンシップに応募したのが私の就活の始まりだったと思います。まだ、自分が何を仕事にしたいのか、といった明確なビジョンはなく、とにかく動いて身を以て経験してみようという気持ちと、これからの就活に向けてもいい練習になる、という思いで受けました。結果から言うと、もちろん経験も対策も未熟なために、面接試験で落ちてしまいましたが、面接がどういうものかを知るいい機会になったと前向きに捉えました。

それから、だんだんと自分がやりたいと思う仕事かわりはじめ、その企業を中心に探し、気になったところから受けていきました。

私は、真面目で課題もきちんとこなす学生だったとは思いますが、デザインが良く出来た学生ではなかったと思い

ます。自分がすごく良くデザインができるわけではないですが、ただ自分のやりたいという気持ちに正直にどんどん受けられるところを受けていました。結果、ほぼ落ちてしまいましたが、自分の経験としてはとてもいい経験になったと今では思います。自分の実力に見合っていない、目標が高すぎる、自分でもそう思いながら受けるだけならただなので、どうせならどんなにレベルが高くても経験しておきたいという興味の方が勝った気持ちで、就活をしていました。

結果として、内定を頂けた中日新聞社は、大学に学内説明会に来ていただいたことがきっかけでした。今回3年ぶりにデザイン課を募集するというので、私も説明会に参加するまで、中日新聞にデザイン課があるとは知りませんでした。私が大学でイラストを好んで描いていたこともあり、応募を決めました。もちろん実技試験もありましたが、不安だった分、実際に受けてみると楽しみながら試験を受けられました。これは私も意外で、必然的に会社の雰囲気と合っていたのかなあと今となっては思います。

私が思うに、就活に何も特別な事はしなくても良いと思います。就活だけ頑張って入ったとしても続きませんし、まず就活だけ頑張るなんてことは無理だと思います。デザインなどの職種となるとまずポートフォリオが必要ですし、普段からやってきたことが重要となります。

ただ間違えないでほしいのは、デザインの上手い学生がみなレベルの高いところや大企業へ就職するわけではない、という事です。とにかく自分の大学生活を精一杯謳歌してください。後悔しないようにだけしてください。絶対結果は着いてくると信じています。



## 周りに支えられて

人間発達学部 子ども発達学科  
4年 中島由佳

私は、将来子どもと関わることでできる職に就きたいという漠然とした目標を持って、名古屋芸術大学に入学しました。子どもと関わると言っても、保育士、幼稚園教諭、小学校教諭、施設職員、その他にも多くの職があります。私は、大学4年間で、様々な実習に行きました。実際にそれぞれの現場に立つことで机上では学ぶことのできない仕事のやりがい、大変さ、楽しさを多く実感することができました。多くの実習の中でも、小学校実習が一番印象深いです。何事にも一生懸命取り組む児童、私の行う授業に真剣に取り組む、問いに答えてくれる姿、一か月という短い期間でも、その子たちが壁にぶつかりながらも乗り越えて成長していく姿を見ることができました。そのような姿を見て、私も一人ひとりが輝くことのできるクラスを作りたいと強く思いました。この実習での経験があったからこそ、私は小学校教諭を目指し、教員採用試験にも全力で取り組めたのだと思います。

教員採用試験を受けるにあたって、私は周りの友人、学校の先生方に本当に支えられ、励ましてもらいました。愛知の試験科目とは大きく異なる岐阜の試験ですが、研究室に何うと快く指導をしてくださる先生、お盆にも関わらず面接練習や小論文指導を何度もしてくれる先生、そして、一緒に同じ目標に向かって頑張る仲間には私にとって大きな存在でした。

試験が近づくにつれ、不安と焦りが大きくなるばかりでしたが、今やれることを精いっぱいやり、今までやってきたことに自信を持ち、自分なら大丈夫だと前向きに取り組みました。時には、つらく涙を流したこともありましたが、なりたい自分の姿を想像し、小学校教諭になりたいという強い思いと恵まれた環境があったからこそ乗り越えることができました。

4月からは、一人の教師として子どもたちの前に立つこととなります。新しい生活に対して楽しみな反面、不安もあります。しかし、目の前にいる子ども一人ひとりを愛し、常に子どものことを考える教師になりたいです。そして、大学4年間支えてくれた親、先生方、友人への感謝の気持ちを忘れず、子どもたちとともに成長していけるよう日々精進していきます。

(岐阜県小学校教諭 内定)

## 第26回 名古屋芸術大学 生涯学習大学公開講座（報告）

本学生涯学習大学講座は今年で26回目を迎え、東西キャンパス合わせて29講座を開講しました。昨年度まで引き続き実施してきた水彩画、木彫、二胡、オカリナなどの講座に加え、「脱線しながらの日本画講座」や「オペラ演技を学ぶ」などの新たな講座を開講し、大好評のうちに終了することができました。

また、名古屋市生涯学習推進センター主催の「大学連携講座」においては、「制作体験！心で感じた形とは？(イメージのかたち)づくり」の講座を開講し、27組49名の親子の方に受講していただきました。

今後も幅広いニーズにお応えできるよう、充実した講座開設に努めてまいります。2016度の講座につきましては、6月中旬頃にご案内する予定です。みなさまのご参加を心よりお待ちしております。

### ■お問い合わせ

名古屋芸術大学生涯学習センター  
TEL：0568-24-0359



子どもの教育と発達に見通しをもって、  
楽しく安心な子育てを



初めての人にも「わかるできる」イラストレーター

### 2015年度 名古屋芸術大学 生涯学習大学公開講座

キャンパス	講座コード	講座名	受講者数
東	M-01	二胡を楽しむ ～入門編～	7
	M-02	はじめてのオカリナ ～オカリナで奏でる心の歌～	14
	M-03	みんなでチャレンジ! 楽しいオカリナアンサンブル	17
	M-04	ラテンのリズムで楽しく演奏『Cajon カホン』	5
	M-05	童謡・唱歌を歌う ～体を動かしてリズムを取ってみよう!～	6
	M-06	健康な声をつくるヴォイス・コンディショニング	14
	M-09	オペラ演技を学ぶ	10
	M-10	パソコンを使ってオリジナル作品づくり ～簡単な画像と音編集～思い出の楽しい保存方法	4
	H-01	子どもの発達と社会の動向に見通しをもって、楽しく安心な子育てを	16
	H-03	Web検索の仕組みとWordでオリジナル年賀状作成	9
西	B-01	美しい水彩画VI ～爽秋の林、花、果実、匂を描く～	30
	B-02	ビギナーズチョイス ～素描を楽しむ～	4
	B-04	わんぱく親子教室(年齢制限なし)	5
	B-06	脱線しながらの日本画講座	6
	B-07	初心者のための墨彩画	14
	B-08	初心者のためのアクリル絵画	7
	B-09	体験! リトグラフ	5
	B-10	木彫を楽しむ partXVII	10
	B-11	初心者でも出来る、絵付けを中心とした陶芸講座	6
	B-12	粘土による自由な造形 ～テラコッタ～	7
	B-13	ガラス工芸 ～アクセサリーやお皿を作ろう!～	12
	D-01	小説家になるための小説創作講座	8
	D-02	芸大・楽しいピンポン(卓球)	8
	D-03	初めての人にも「わかるできる」イラストレーター	9
	D-05	誰でもできる、オリジナルジュエリー講座	7
	D-06	創作メダル講座	6
	D-09	織りの表情を楽しむ ～リジット機を使って～	7
合計27講座			253

### 2015年度 名古屋市大学連携講座

日程	講座名	受講者数
6月6日～ 7月11日	制作体験! 心で感じた形とは? (イメージのかたち)づくり ～機械やロボットではできない心で感じた形を 描いて、創ってみよう～	27組49名

### 2015年度 名古屋市シリーズ講座

日程	講座名	受講者数
7月2日	持続可能な地域のためのデザイン ～里川の生きもの保全と新しいふるさとづくり～	20



初心者のための墨彩画



織りの表情を楽しむ～リジット機を使って～

# 2015年度 名古屋芸術大学後援会 研修旅行報告

10月3・4日に、長野・群馬方面へ後援会の研修旅行に行ってみました。竹本学長を始め、大学関係の方や顧問の皆様、役員、委員の総勢24名の方々にご参加いただき、両日とも、天候に恵まれ、爽やかなスタートとなりました。



1日目は、りんごや栗、葡萄などの果樹園を通り、国宝、重要文化財である長野県の善光寺を参拝し、お土産店がずらりと並ぶ参道を散策しました。そして、人気スポットとして親しまれている「栗と北斎と花のまち小布施」を散策し、葛飾北斎館では有名な浮世絵『天井絵』や、他にもいくつかの作品を観賞することができました。

夜は磯部温泉の「すずめのお宿」にて、おいしいお料理をいただきながら、多くの方とたくさんお話ができてとても楽しかったです。温泉に入り疲れも癒せたのでぐっすり眠れ、翌日も元気に出発することができました。

2日目は、昨年放映されたNHK大河ドラマ『花燃ゆ』の舞台でもある群馬県の富岡製糸場を観光しました。一昨年、世界遺産に登



録されたばかりで、観光客も多くにぎわっていました。ここは明治政府が日本の近代化のために建設し、フランスの技術がたくさん使われており、建物には「木骨レンガ造」という建築工法が取り入れられているそうです。日本と世界の技術交流の歴史を感じることができました。

今回、世界遺産や国宝に触れることができたことは言うまでもありませんが、皆様のおかげで「後援会の絆」を更に深めることができたと思います。

旅行を通して私が一番心に残ったことは、人と人の繋がりの大切さを学べたことです。正に『人に感動を、人に感謝を』の日々でした。

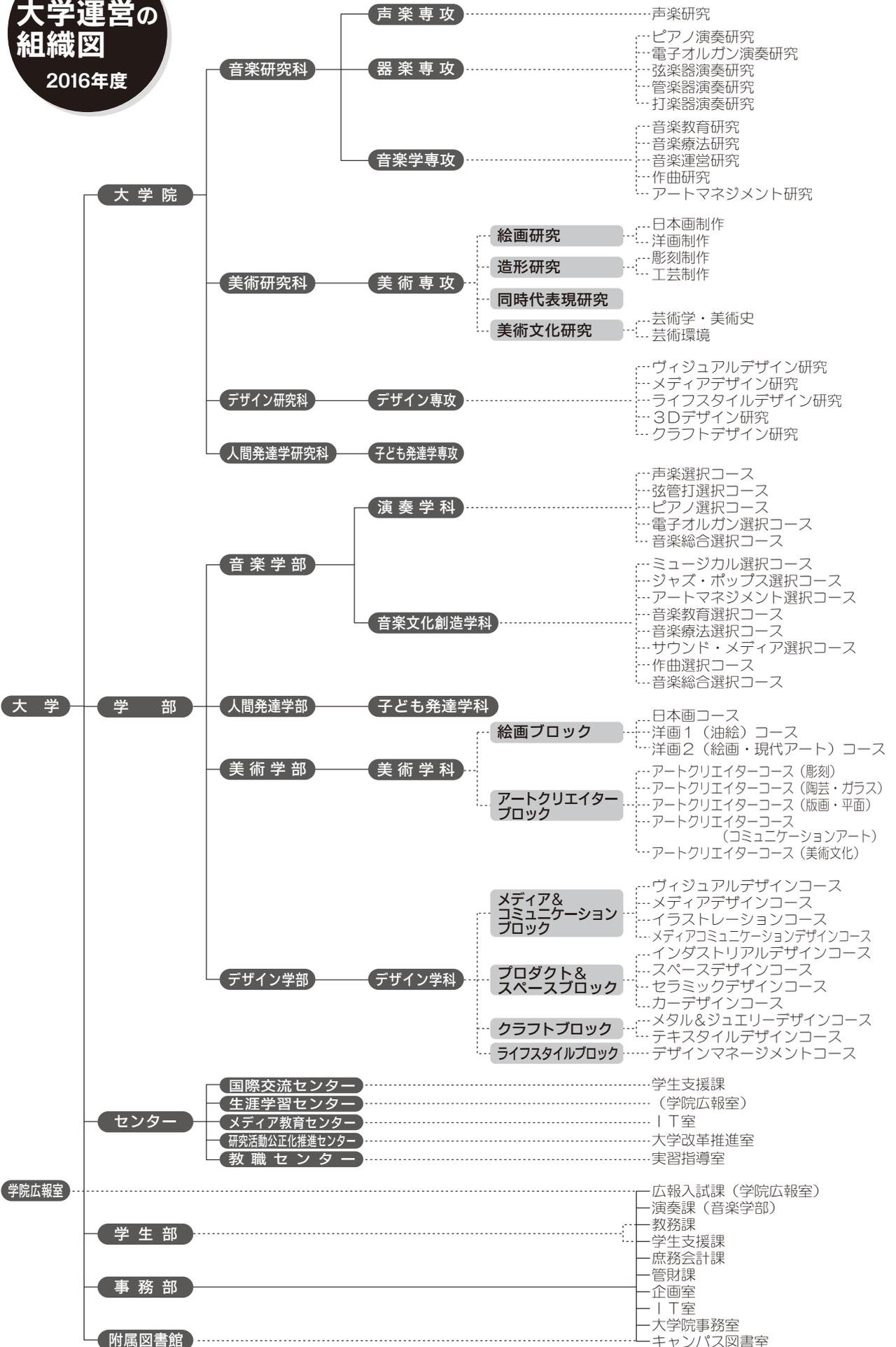
皆様のご協力により、楽しい時間を共に過ごせたことに心から感謝しております。ありがとうございました。

副会長(事業委員長) 岩尾弥生



## 大学運営の組織図

2016年度



# 名古屋芸術大学・大学院後援会会則

- 第1条 本会は名古屋芸術大学・大学院後援会（以下「本会」という）と称し、事務局は名古屋芸術大学内におく。
- 第2条 本会は名古屋芸術大学・大学院の教育方針に基づき、大学諸活動の後援を目的とする。
- 第3条 本会は前条の目的を達成するために、次の事業を行う。
- (1) 学生の課外活動への援助と学生の福利厚生に関する援助。
  - (2) 大学の正常な運営への寄与と、保護者の希望を大学に反映させる活動。
  - (3) その他本会の目的達成に必要と認める事業。
- 第4条 本会は名古屋芸術大学・大学院学生の保護者または、これに代わる者及び役員会が認めた本学卒業生の保護者をもって組織する。
- 第5条 本会に次の役員をおく。
- (1) 会長1名、副会長4名、監事1名、会計監査2名、書記2名、会計1名
- 第6条 本会の役員選出は次の方法による。
- (1) 役員は総会において会員の中から選出する。
  - (2) 書記、会計は役員の中から会長が委嘱する。
  - (3) 役員の任期は1カ年とする。但し再任は妨げない。
- 第7条 本会役員の任務は次のとおりとする。
- (1) 会長は会務を統括し、副会長は会長を補佐し、会長が事故ある時はその代理をする。
  - (2) 監事は会務を監査する。
  - (3) 書記、会計は会長に委嘱された会務を行う。
- 第8条 本会の会議は総会、役員会とし、議長はその都度選出する。
- 第9条 定期総会は原則として年1回、5月に会長が招集する。必要と認めた場合は臨時総会を開くことができる。
- 第10条 総会は次の事項を審議・決定する。
- (1) 事業の実施、収支決算及び予算に関すること。
  - (2) 会則の改定、会の解散に関すること。
  - (3) 役員を選出、その他の役員が必要と認めた事項。
- 第11条 総会は出席会員で成立し、議事は出席会員及び出席者に委任した者の過半数をもって議決する。
- 第12条 役員会は出席役員で成立し、会長が招集、議事は出席役員の過半数で議決する。役員会は総会への提案と決定事項の実施、運営にあたる。
- 第13条 本会にその目的を達成するために次の委員会をおく。
- (1) 総務委員会
  - (2) 事業委員会
  - (3) 広報委員会
- 第14条 委員会に、委員長1名、副委員長2名および委員若干名をおく。
- 2 委員長は副会長が兼務し、副委員長及び委員は委員会の同意を得て会長が指名する。
- 第15条 本会に顧問をおくことができる。顧問は役員会の承認により、会長が委嘱し、会長の要請により各会議に参加し意見を述べる。
- 第16条 本会の経費は、会費及び寄付金をもってこれにあてる。会費は入学時16,000円、2年次以降年額10,000円とする。大学院生は年額10,000円とする。
- 第17条 本会の会計年度は4月1日より翌年3月31日までとする。
- 第18条 本会則の運営に必要な事項は、役員会の議を経て会長が定める。
- 附則
- 1 本会則は昭和62年6月22日から実施する。
  - 2 本会則は昭和63年6月12日一部改正し実施する。
  - 3 本改正会則は平成10年5月31日から実施する。
  - 4 本改正会則は平成25年5月19日から実施する。
  - 5 本改正会則は平成26年5月18日から実施する。

## 名古屋芸術大学・大学院後援会の弔意に関する内規

1. 学生が死亡したときは、担当者からの申請に基づきその家族に対し、弔慰金1万円を給付する。
2. 保護者（父・母）が死亡したときも、担当者からの申請に基づきその家族に対し、弔慰金5,000円を給付する。
3. 役員の子親等血族および1親等の姻族が死亡した場合は、弔慰金として5,000円を給付する。
4. 弔慰金の給付については、事由の発生から1年以内に後援会事務局に申請されたものに限る。
5. この内規により処理できない場合は、会長の判断により執行し役員会に事後報告する。

附則1. この内規は、慣例的に実施していたものを平成15年4月1日付けで明文化する。

附則2. この改正内規は、2006年6月1日より施行する。

## 名古屋芸術大学・大学院後援会顧問の委嘱に関する内規

1. 名古屋芸術大学・大学院の顧問は、原則として、役員会の承認に基づき、会長、副会長経験者の中から会長が委嘱する。
2. 顧問の任期は、会長経験者は15年、副会長経験者は10年とする。
3. この内規に基づき処理できない場合は、会長の判断により執行し役員会の承認を得るものとする。

附則 この内規は2005年（平成17年）4月1日から適用する。

## 同窓会総会・卒業生懇親会

### 〈音楽学部〉

去る2015年12月12日(土)に名古屋芸術大学東キャンパスにおいて、音楽学部同窓会総会と、同窓会及び音楽学部共催の「卒業生懇親会」が開催されました。

総会は2号館大アンサンブル室で行なわれ、山田正丈会長(10期 声楽卒)を議長に、平成27年度事業報告・決算報告、平成28年度事業計画・予算案などを審議し、いずれも原案どおり承認されました。

総会閉会后、会場を2号館ロビーに移しての「懇親会」は約200名の参加者を迎え、今回も盛会となりました。加藤尚二さん(13期 音教卒)の司会によるパーティーは山田会長の挨拶の後、川村大介理事長・竹本義明学長・山田敏裕音楽学部長にご挨拶をいただき、山田会長による乾杯の発声をきっかけにたくさんの歓談の輪ができました。フルートの劔山佳奈さん(演奏学科弦管打コース4年)、岸 舞子さん(演奏学科弦管打コース3年)、ピアノの深町奈緒さん(演奏学科ピアノコース3年)による演奏の他、抽選大会で大いに盛り上がりました。

また今回のゴールデンプライズは、第6回岐阜国際音楽祭コンクールにおいて第1位を受賞した浅井美帆さん(演奏学科弦管打・バンドディレクター選択コース40期生)に贈られ、返礼演奏で、ピエルネ作曲カンツォネットが披露されました。

恩師や友人との久しぶりの再会ということもあり、パーティー終了後も話し声は尽きませんでした。

### 〈美術学部・デザイン学部〉

去る2015年11月15日(日)“HOTEL ルブラ王山”において、第28回美術・デザイン学部同窓会総会・懇親会が開催されました。

総会は芳賀基純副会長(20期洋画卒)が司会と議長に、中島弘敬会長の挨拶に始まり、2014年10月1日～2015年9月30日までの事業報告・決算報告及び監査報告が有り承認され、新役員の紹介が議長より有り、2015年10月1日～2016年9月30日までの事業計画(同窓会規約改正、社団法人化)・予算案が担当者から提案があり、原案どおり承認されました。

会場を移しての懇親会は、加藤雄一郎評議員(28期彫刻卒)と佐竹亜希子評議員(28期日本画卒)が司会で、初めにデザイン学部長を務めていた落合紀文教授追悼の黙祷を行い、中島会長の挨拶、そして川村大介理事長、竹本義明学長ご挨拶をいただき、大島俊三元学長の乾杯を合図に、音楽学部へ依頼したバンドの演奏を聴きながら始まりました。恩師や友人との久しぶりの再会、年を隔てた同窓生との新しい繋がりが生まれ、話が途切れず、輪の広がりを感じる良い会となりました。

美術学部美術学科教授 岩井義尚(5期 彫刻卒)



## 「せせらぎ合唱団」団員募集

この「せせらぎ合唱団」は、名古屋芸術大学後援会の父兄の方を中心に卒業後の父兄を含めて歌うことのできる仲間で、月1回第三土曜日の午後1時から4号館の3階のオペラ教室で名古屋芸術大学の声楽の江端智哉先生と山田正丈先生と交互に「歌を歌って楽しもう」と16年前から活動している合唱サークルです。両先生から懇切丁寧な御指導をいただき、楽しく練習に励んでいます。

今年入学された父兄の皆様には5月の定期総会の折には案内させていただく機会があると思います。まだご存知ない方々にもぜひとも知っていただきたく、この会員の募集をします。これまで、大学の学園祭の会期中に演奏会を開催したこともあります。学内で演奏会がもてるように練習を重ねていきたいと思っています。初めての方でも、まず発声から始めて、楽しく練習できますので大丈夫です。

今は中学生の時に歌ったことのある「雪の降る街を」や「ローレライ」を発声練習のとり組んでいます。今年は、阿久悠作詞、森田公一作曲で和田アキ子の歌で知られている「あの鐘を鳴らすのはあなた」を江端先生の編曲で3部合唱を取り組んでいます。是非ともこの仲間に加わってくださることを団員一同から待っています。

連絡先は下記の通りです。

### 〈問い合わせ先〉

代表 長江政則  
電話：0561-41-1655 携帯：080-3621-7706  
千石智子  
電話：0561-53-4222 携帯：090-8469-4324



## 絵画グループ 壁の華 会員募集

この「壁の華」は、名古屋芸術大学後援会の有志によって、「絵を描いて楽しもう」と、活動を開始した絵画グループであります。毎月、名芸大の教室をお借りして、大学の先生方により懇切丁寧なご指導を頂いているとても素晴らしい絵画グループであります。年一回、名古屋市民ギャラリーの展覧会を、会員の作品で飾っております。他に、研修会、鑑賞会、スケッチ旅行等、楽しい行事が沢山あります。この会は後援会に関係のある方ならどなたでも入会して頂けます。入会すれば絵画を通じて、先生方や会員同士の交流が深まり、日々の生活が楽しく、人生に潤いが生まれて参ります。絵に自信の無い方大歓迎です。

会員一同、皆様のご入会をお待ちいたします。

### 【活動状況】

- 1、月例会(27年継続中)  
日 時：毎月第三日曜日午後2時～4時  
場 所：名芸大西キャンパス
- 2、グループ展(21回継続中)  
日 時：毎年5月上旬(一週間展示)  
場 所：名古屋市民ギャラリー
- 3、スケッチ会 11月予定
- 4、日展、二科展、国画展の鑑賞会

### 〈問い合わせ先〉

会 長 宇佐見 誠也  
〒489-0874 瀬戸市幡野町508  
電話：0561-21-4567 携帯：090-7305-8205  
運営委員長 森部 みや子  
〒492-8075 稲沢市下津町西下町58  
電話：0587-32-2814 携帯：090-1825-1671



## 編集後記

夢と希望を抱き、そして同じくらいの不安をかかえながら入学したあの日から4年が過ぎましたね。卒業を迎え一生懸命に勉強・実技に励んでこられたことと思います。

学業とアルバイトを両立させている子供達の毎日を見ていると本当に拍手を送りたいですね。私も娘の入学と同時に本校の後援会に参加させて頂きました。役員活動のおかげで

大学の様子もわかり、後援会行事の研修旅行へも楽しく参加ができました。委員会後に見学した芸大祭では、ステキな作品を見たり、たくさんの学生の皆さんとふれあえたりと、4年間数々の思い出をいっぱい作ることができ良かったです。在校生の皆さんは、卒業までの日々を大切にすごし、卒業生の皆さんはこれから社会にでるわけですが、学生生活の思い出と経験を活かしてさらに頑張ってくださいね。応援しています。

広報委員長 安藤邦恵

- ◆発行 名古屋芸術大学・大学院後援会  
〒481-8503  
愛知県北名古屋市熊之庄古井281番地  
TEL. 0568-24-0315 FAX. 0568-24-0317
- ◆編集 名古屋芸術大学・大学院後援会  
広報委員会
- ◆表紙デザイン  
本学デザイン学科卒業生 武藤理恵子
- ◆封筒デザイン  
本学デザイン学科卒業生 福見光洋
- ◆発行日 2016年(平成28年)3月31日

